

年報 20

2003年度
(平成15年度)

2004. 8

山梨県埋蔵文化財センター

年報 20

2003年度
(平成15年度)

2004. 8

山梨県埋蔵文化財センター

序

本書は、2003年度に当センターが実施しました発掘調査及び試掘調査などの概要と、「遺跡調査発表会」や「山梨の遺跡展」などの普及事業の内容を報告するものであります。

発掘調査では4事業の開発工事に伴い、4箇所の遺跡調査を行いました。まず、山梨市の「足原田遺跡」では、平安時代末期の住居跡6軒が発見され、また、調査区中央部に形成された谷には古墳時代前期の土器捨て場が存在していたことを確認しました。「井坪遺跡」・「炭焼遺跡」の両遺跡は富士河口湖町河口に所在しており、「井坪遺跡」からは縄文時代後期の加曾利B式土器や平安時代の烟跡と考えられる遺構が、「炭焼遺跡」からは縄文時代から近世に至るまでの土器や陶磁器片が確認されました。「鍬沢河岸跡」は2000年から発掘調査に着手した事業で、今年度は河岸間屋街最北部が調査範囲となっていました。その中から、文政4年（1821）の大火にあたるものと考えられる、一面に焼土が広がっている面を確認することができました。また、焼けた面で確認された地割については、江戸時代の終わりに描かれたとされる「海野家絵図」の地割とほぼ一致することが明らかになりました。「小井川・小河原遺跡」からは、溝や墓といった遺構が確認され、中世から近世に至るまでの土器や陶磁器などの生活遺物が出土しました。調査区域近辺にはかつて寺院が存在していたことが確認されており、当時の生活の様子の一端を窺い知ることができるものと思われます。

なお、甲府城の稻荷櫓の復元工事が2003年度に完了し、2層の白壁の櫓建物が2004年4月から一般公開され、益々県民の注目を浴びている「県史跡甲府城」ですが、2003年度は14年間余りの発掘調査成果の報告書刊行にむけて本格的整理作業をすすめたところです。調査では、甲府城の築城年代を示す豊臣氏の金箔瓦などが出土し、当時の野面積み石垣や築城の技術が解明されました。一方、甲府城下町の調査報告書も刊行しましたので、一連の成果が甲斐の近世史を紐解くとともに、多くの方々に山梨県の歴史全般を身近に感じていただく大きな契機となれば望外の喜びであります。

また、2002年度からは小中学校で、翌年度からは高等学校において「総合的な学習の時間」が本格的に実施されています。それに伴い、各種講演会等への講師派遣、学校教育現場への出前支援授業や道具貸出、生徒を受け入れての職場体験といった学校からの要望が当センターに対して数多く出されるようになり、2003年度は出前支援事業9回、職場体験受入3回、講演会講師派遣16回の普及事業を実施いたしました。

そのような中で、当センターでは普及事業の受け入れ基準である「山梨県埋蔵文化財センター資料普及事業に関する取扱要綱」を定め、また、収蔵している考古資料の積極的活用を図るために「山梨県埋蔵文化財センター資料活用に関する規程」を定めました。これらの事業は今後ますます要望が増加していくことが予想されますので、受け入れ態勢の整備を図っていく予定であります。

当センターは1982年の発足以来21年が経過しましたが、これまで県内各地で発掘調査を実施し、埋蔵文化財の保護に努めてきました成果を、県民の皆様にさまざまな場でより積極的に活用していただけるようにしてまいりますので、これからも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2004年8月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 渡辺 誠

目 次

第1章 2003年度の事業概要

1 発掘調査等	1
2 整理作業	1
3 資料普及事業	2
4 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧	4
5 所内研究グループ	7
6 第16回市町村埋蔵文化財専門職員研修会	8
7 遺跡調査発表会	8
8 山梨の遺跡展2003	9
9 所内研修	10
10 寄贈・購入図書	10

第2章 各遺跡の発掘調査等概要

1 足原田遺跡	11
2 井坪遺跡・炭焼遺跡	13
3 鮫沢河岸跡A	15
4 小井川・小河原遺跡	17
5 甲府城跡（県指定史跡）関連事業	19
6 県内分布調査	21

第3章 県内の概況

1 発掘調査	33
2 県指定文化財	33
3 発掘調査の成果と保存整備事業	33
4 調査体制	33
山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移（グラフ）・2003年度発掘調査一覧表	34

凡　例



2003年度 発掘調査遺跡位置図

2003(平成15)年度 職員組織

所長	渡辺 誠	総務課長	坂本 美夫	調査研究課長	八巻 輿志夫	資料普及課長	久保川 一三
次長	山崎 義雄	主査	塚脇 亮一				
総務課長(兼)	山崎 義雄	副主査	今泉 俊彦				
次長	末木 健	主事	折居 誠				
調査研究課長	坂本 美夫	主任文書事務員	矢崎 和子				
資料普及課長	八巻 輿志夫	業務員	久保川 一三				
調査研究課 第1担当	調査研究課 第2担当	調査研究課 第3担当	調査研究課 第4担当	資料普及課 第1担当	資料普及課 第2担当		
副主幹・文化財主事	長沢 宏昌	副主幹・文化財主事	保坂 康夫	副主幹・文化財主事	高野 玄明	副主幹・文化財主事	米田 明訓
主任・文化財主事	小林 孝子	主任・文化財主事	笠原 みゆき	主任・文化財主事	猪股 一弘	主任・文化財主事	三田村 美彦
主任・文化財主事	小林 弘典	文化財主事	野代 恵子	副主査・文化財主事	今福利 恵	副主査・文化財主事	森原 明廣
非常勤嘱託	正木 季洋	非常勤嘱託	一瀬 一浩	非常勤嘱託	須長 愛子	非常勤嘱託	網倉 邦生

第1章 2003年度の事業概要

1. 発掘調査等

2003年度の発掘調査等は、以下のとおりである。各遺跡の概要は、第2章で述べることとする。

番号	遺跡名他	番号	遺跡名他
1	足原田遺跡	2	井坪遺跡・炭焼遺跡
3	駿沢河岸A	4	小井川・小河原遺跡
5	甲府城跡(県指定史跡)		

・県内分布調査

番号	遺跡名他	番号	遺跡名他
6-01	県道17号(七里岩ライン)拡幅工事に伴う試掘調査(能見城)	6-02	県立射撃場建設に伴う試掘調査
6-03	西関東道路建設に伴う試掘調査(上可田遺跡)	6-04	裁判所長宿舎近くに替え工事に伴う試掘調査(甲府城下町遺跡)
6-05	山梨大学クリーンエネルギー研究センター増設事業に伴う試掘調査(武田城下町遺跡)	6-06	県立女子短期大学校舎改築に伴う試掘調査
6-07	山梨県庁構内駐車場建設に伴う試掘調査(甲府城跡)	6-08	あけぼの医療センター改築工事に伴う試掘調査
6-09	西関東道路間連取り付け道路建設に伴う試掘調査	6-10	国土交通省河川改修工事に伴う試掘調査(青柳河岸跡)
6-11	地滑り対策工事に伴う試掘調査(六郷町一の坪地内)	6-12	地滑り対策工事に伴う試掘調査(赤池氏屋敷)
6-13	大野榮堤護岸工事に伴う試掘調査	6-14	一般国道139号都留バイパス建設工事に伴う試掘調査(玉正寺遺跡・天正寺遺跡)
6-15	工業振興地域内における試掘調査(野牛島遺跡・西之久保遺跡)	6-16	新山梨環状道路建設工事に伴う試掘調査(小井川・小河原遺跡)
6-17	山梨大学工学部綜合研修棟改修に伴う仮設プレハブ建設立会調査(武田城下町遺跡)	6-18	富士北麓総合学科建設事業に伴う仮設校舎建設立会調査
6-19	県庁構内地下廻設工事に伴う立会調査(甲府城跡)	6-20	大林寺川火山防災事業に伴う立会調査
6-21	北杜高校農場内建物解体工事に伴う立会調査(原町農業高校前遺跡)	6-22	裁判所長宿舎基礎撤去工事に伴う立会調査(武田城下町遺跡)
6-23	県営塩部第2団地改築事業に伴う立会調査	6-24	北杜高校農場内馬術練習場整備施設に伴う立会調査(原町農業高校前遺跡)
6-25	六郷町落居地区地滑り対策事業に伴う試掘立会調査		

2. 整理作業

2003年度の整理作業は、以下のとおりである。

1) 基礎的整理作業

番号	遺跡名
1	駿沢河岸A・B
2	足原田遺跡
3	小井川・小河原遺跡
4	井坪遺跡・炭焼遺跡

2) 本格的整理作業

番号	遺跡名
1	原町農業高校前遺跡(第2次)
2	県指定史跡 甲府城跡

3) 報告書作成作業

番号	遺跡名
1	百々遺跡2・4
2	百々遺跡3・5
3	日向町第2遺跡
4	甲府城下町遺跡
5	酒吞場遺跡
6	原町農業高校前遺跡(第3次)
7	中沢遺跡・武家遺跡
8	寺部村附遺跡・中西遺跡
9	黒巻鉄貨出土遺跡詳細分布調査

3. 資料普及事業

今年度は、学校等からの講師派遣・出前支援授業・職場体験・道具貸出等の要望に対する受け入れ基準を次のように整備した。普及事業とその取り扱い基準を「山梨県埋蔵文化財センター資料普及事業に関する取扱要綱」として定めた。また、収蔵している考古資料の積極的活用を図るため「山梨県埋蔵文化財センター資料活用に関する規程」で、活用できる考古資料の範囲及びその方法等を明確にした。

今年度は、5校からの要望を受け入れ、合計9回の出前支援授業を行い、3校から職場体験の生徒を受け入れた。また、各種研修会・講演会の講師として、職員を合計16回県内各地に派遣した。



土器作りの様子（落合小）



火起こしの発表会（増穂小）

平成15年度 資料普及事業実績一覧表

月	出 前 支 援 授 業	回数	職 場 体 験	回数	講 演 会 講 師 派 遣	回数
4月						
5月					寿勤学院「甲府城」	1
6月	玉宮小	2			考古博物座、レインボーユニバ	4
					寿勤学院甲府、寿勤学院山梨	
7月	身延東小	1			藤川小甲府城見学会	1
8月			北東中、石和中、東高	3	東八代教員甲府城見学会 甲府教員甲府城見学会 総合教育センター講師	3
9月					魅力メッセージヤー甲府城見学会 魅力メッセージヤー鰐沢見学会 五開小学校鰐沢見学会	4
10月	落合小×2、白根東小	3			寿勤学院大学院甲府城見学会	
11月						
12月	落合小	1				
1月	増穂小	1				
2月	落合小	1			北東中講演、高校教育研究会講演 博物館県民参画事業	3
3月						
合計		9			3	16

*対応職員数 8名

*1件に職員2名対応

*1職員平均2件対応

*8月中のみ3校3名受け入れ

*甲府城見学会、鰐沢河岸見学会含む

山梨県埋蔵文化財センター資料収集活用事業に関する規則

山梨県埋蔵文化財センター資料収集活用事業に関する規則

(施行)

第1条 この規則は、山梨県教育厅組織規則第19条第1項第3号および第4号に定めるべき、埋蔵文化財センターが所持する資料の収集活用事業に係るための基準を定めるものとする。

(資料収支の内容)

第2条 山梨県埋蔵文化財センターが行う当該活用事業等は、次のものとする。

1. 出土品の収集
2. 資料収集
3. 資料収集
4. 資料おもなびき資料の貸し出し
5. 所蔵文化財を広く活用するための情報の広報
6. その他、埋蔵文化財の普及活用に必要と認められるもの

(取り扱い基準)

第3条 第2条で定める資料収集活用事業は別に定める「資料収集活用事業取扱要領」にもとづいて行う。

(その他)

第4条 本規則に定めの無い事項については、課長会議で協議し、所長が決定する。

附 則

本要則は、平成15年9月16日から施行する。

(利用の申請)

第5条 資料の借用を希望する者は、必ず申請書を記載した(下面別1号様式)をもつて、当該埋蔵文化財センター・所長(以下「所長」という)に借用申請し、その承認を得なければならない。

(利用の手續)

第6条 所長は、前条の規定に基づく書類が提出された時は、資料の保存上必要な条件を付して審査(第2号様式)をもって承認できるものとする。

2 所長は、申請内容を検討して、考古資料の保存上利用を承認することが望ましくないと判断した場合には、前述の規程に拘らず、不許可することができる。不許可と判断した場合には、速やかに申請者に返却(第3号様式)をもって適切なればならない。

(借用承認の取り消し又は中止)

第7条 所長は、前条の規定に基づき承認した場合であっても、次に掲げる事項に該当する事由から中止を指示したことにより、速やかに承認を取り消し、又は利用の中止を指示することができる。

(1) 文化財の保護上最もしない行為を行おうとした場合又は行った場合
(2) 展示場が定めた文化財保護に関する港航規程に違反した場合
(3) 係員の指示に従わなかった場合
(4) 利用方法等が、申請内容と異なることが明らかとなつた場合
(5) 他の利用者の迷惑となる行為をした場合
(6) センターの運営に影響が生じた場合又は生じることが予想される場合

2 前項の規定に委託して借り受けた者は、速やかにその旨に依る承認を受けることとする。
(借用の届出)

第8条 所長は、利用中の考古資料を撤去または破損した旨には、施設に要する経費を請求する事ができる。請求を受けた者は、速やかに高償しなければならない。

(考古資料の退避)

第9条 第6条にに基づき水没を受けて考古資料を利用している者が利用を終了した場合は所長から退出する場合は、速やかに係員に担当該考古資料を返還しなければならない。

(保管の取扱等)

第10条 体制的な考古資料は、保管庫等による直接的保管は原則として認めない。
2 申請者が行う考古資料のうち搬入搬出は、施設の定めに従つて手続をを行うこととする。

(資料の回収)

第11条 その他の、この規則に定めの無い事項については、所長と博物館長とが協議して決定する。

2 本規則は、平成15年1月21日から施行する。

附 則

本規則は、平成15年1月21日から施行する。

4. 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧

収蔵資料貸出許可一覧

番号	貸出期間	申請許可件名	申請者	利用目的
1	4.1~H16.3.31	金牛・意跡出土 寺所遺跡出土 城下遺跡出土 東原遺跡出土	大泉村教育委員会	大泉村歴史民俗資料館に展示のため
2	4.1~H16.3.31	勝賀遺跡出土 *	町野村教育委員会	町野村文化財センターに展示のため
3	4.1~H16.3.31	柳沢遺跡出土 ～の沢遺跡出土 *	山梨市立八幡小学校	社会科及び総合学習授業の教材に使用ため
4	4.1~H16.3.31	大鷲東丹保遺跡出土 *	(財) 山梨県公園公会	当伏川フルーツ公園内地下施設景物館に展示するため
5	4.1~H16.3.31	桜井遺跡出土 *	北杜市少年センター	青少年センター別館に展示のため
6	4.1~H16.3.31	忍町昌富高松前遺跡出土 御林形土器15点	公立北杜高等学校	教材として、活用展示するため
7	4.1~H16.3.31	鹿部原遺跡出土	堤山市教育委員会	市民教育に供するため
8	5.17~7.2	古越毛遺跡出土 *	県立歴史博物館	企画展「移沼一門の旅路」に展示するため
9	7.2~8.29	天井塗跡出土 鳥島山遺跡出土 鹿部遺跡出土	安中市教育委員会	第3回企画展「ストーンロード」開催に伴う黒曜石が持つ意味のため
10	8.7~8.12	猪崎3点 屏風1点	2003年7月を離す山梨県展実行委員会	2003年7月を離す山梨県展実行委員会に展示するため
11	9.9~10.28	森谷塗跡出土 *	夏美劇場実行委員会	「草履く翁琴文化」に玉・石斧の生産と交易に展示するため
12	10.8~H16.1.26	天神遠跡出土 *	安中市教育委員会	第3回企画展「ストーンロード」に展示のため
13	10.22~11.25	安達寺遺跡出土 少丸遺跡出土 津物加隈遺跡出土 ～の沢遺跡出土	辰野美術館	金巴辰「絵文の森～夏本太郎とゆく～」
14	10.10~10.23	石鏡レプリカ3点	南アルプス市立白堀東小学校	総合的な学習の授業で使用するため
15	7.9~12.23	平林2号墳出土 *	白須武事工展実行委員会	平成16年度特別企画展「古須次女江と後の下たち 黄金色に輝く玉たちのない」に展示するため
		かんかん塗内塗出土 電干2号墳出土		
		金鏡袋合1点		

写真資料の貸出並びに掲載許可一覧

番号	申請日	申請者	利 用 目 的	申 請 物 件 名
1	4月9日	株式会社 小学館	「考古資料大観 第7巻 隅田・古墳時代 衣・金冠製品」に掲載のため	かんかん櫻古墳 御崎古墳
2	5月1日	県道立遺跡博物館	企画展「勝誂・宮の遺跡」にて展示するため	吉島毛遺跡
3	5月27日	株式会社 氷水社	学習研究社「復元模型で見る日本の城」に掲載のため	甲府城跡
4	6月20日	鶴川市立美術館	「原始美術の草 織文土器の塗装」図録並びに広報物へ掲載のため	國學院跡 ・のれ道跡 墨田山遺跡 安達寺遺跡 安達寺遺跡 天神道跡 花鳥山遺跡
5	7月24日	安中市教育委員会	企画展「ストーンロード」図録並びにパネルなどを使用するため	東山山頂(A) 遺跡 東山山頂(B) 遺跡 岩清水遺跡
6	8月5日	株式会社 小学館	「考古資料大観 第3巻 佐生・古墳時代 土器Ⅲ」に掲載のため	上袋集落等真 出土土器 土器合符真
7	8月5日	長野県立歴史館	長野県立歴史館新設記念小冊子「マ・古代の文字と印の世界」のパネルに掲載のため	孝子町清瀬背後
8	8月11日	布袋会社 ソフィスインターフォーム	観光ガイドブック「越マップ山縣」記事に掲載のため	考古物館
9	8月22日	「駿河川祓の東」愛知県環境実行委員会・糸魚川市長者ヶ原考古館	「ビスイ文化フォーラム'2003」「華麗く豪華文化—石器・石斧の形態と交換—」に展示するため	沼名場遺跡 余生遺跡 天神道跡
10	8月28日	甲府商工会議所	甲府商工会議所だより平成15年9月号「奇に掲載のため	甲府城跡
11	9月1日	安中市教育委員会	企画展「ストーンロード」図録並びにパネルなどを使用するため	山脈から見えた八ヶ岳 天神道跡
12	9月2日	甲府商工会議所	甲府商工会議所だより平成15年9月号に掲載のため	甲府城跡出土 金削丸
13	9月17日	谷川義良	「谷戸郷誌」(旧戸戸村)に掲載のため	金牛遺跡 城下道跡
14	9月19日	足野美術館	企画展「縄文の真—岡本太郎と歩く」の図録並びに広報物へ掲載のため	安達寺遺跡 中丸遺跡 御物御星遺跡 一の坂遺跡
15	10月3日	株式会社 岩崎書店	「日本人」を知る本一人・心・衣・食・住・工作5巻に掲載のため	秋道食道跡 土偶集合等真
16	10月7日	株式会社 氷水社	学習研究社「復元模型で見る日本の城」に掲載のため	甲府城跡
17	10月8日	県史編さん室	「山梨県史」「資料編7」「中世4(考古資料)」に掲載のため	都沢河岸跡
18	10月22日	国学院大學考古学研究会	英語版「挑戦の世界」に掲載のため	東部坂道跡 金生遺跡 中ノ坂道跡 酒呑童遺跡 駒込丘道跡
19	10月29日	株式会社 小学館	「考古資料大観 第4巻 佐生・古墳時代 墓塚」に掲載のため	鏡子冢古墳
20	10月31日	株式会社 武庫堂	「2005年全日本カレンダー」に掲載のため	甲府城跡
21	11月12日	県史編さん室	「山梨県史」通史編1に掲載のため	・本郷遺跡 東山北遺跡 米山山頂跡 金の尾遺跡 鹿谷場遺跡 ・の尻遺跡 海道遺跡 ・C遺跡 櫛形地遺跡 東山山(B) 遺跡 久保田・遠々木遺跡
				・木山遺跡 10~13号住跡穴掘状況 8号住居跡 貨幣 16号住居跡 方形切削石群 C14号住居跡穴掘状況 4号1層出土土器 出土土器 打製石斧・石器 柄手付土器・石器 石斧 漢代把手方軸 筋形彌耳彌、彌形はう 久保田坂上1号焼失建物遺構

番号	申請日	申請者	利 用 目 的	申 請 物 件 名	
				古々遺跡 岩清水遺跡 宮の前遺跡 丸山古墳 桃針石古墳跡 天神塚古墳 北原遺跡 大月遺跡 甲ノ原遺跡 大月遺跡 長崎原古墳遺跡 児川	18号土坑出石ウマ 鳥喜上若「甲斐」 現憲器はそう・高砂 所外標示 迷路 日根原製石斧 鹿骨 住居内埋蔵 石燈セット 石柱と磨石 省利式と加賀式の対比 有孔鉗付上器 ナウマンゾク白齒
22	11月20日	株式会社 春秋社	「飛もれた室空一音楽考古学の研究から」に掲載のため 「音古資料人蔵 第4巻 路生・古曇時代 墓輪」	千鈞 有孔鉗付土器	
23	12月25日	株式会社 小学館	桃ノ原古墳	岩形埋輪(歴史)	
24	1月9日	北日本放送株式会社	市民がレッジテレビ放送講座「遙かなる記憶~考古学者が語る吉山~」副読本に掲載のため	天神遺跡 雞望望天井	
25	1月9日	株式会社 犀雄書房	「日本大歴史後編」(ちくま文庫版収録)に掲載のため	櫛林遺跡 吉の池遺跡	
26	1月16日	県史編さん室	「山梨県史」通史編1に掲載のため 「日本大歴史後編」(ちくま文庫版収録)に掲載のため	上の平遺跡 東山古墳群 三鈴町大堀古墳 酒井場跡 二の宮遺跡 児川 都尾土里一丁目遺跡 方形石塚墓州十石塚 京の戸真 船岡 小野城 C式14号住居跡発掘状況 豊2号作別跡発掘状況 ナウマンゾク右土塁2大臼床 小川園水川川原出状況	
27	1月28日	百済武寧王故実実行委員会	「百済武寧王と倭の五王たち」表の説明並びに広報誌掲載印刷物、インターネット上への掲載のため	平林2号墳 金網張花形鏡 金網張辻金具 金網張金具 三燈鏡 金網張杏葉 櫛林遺跡 一宮町の底森里遺跡 小平沢古墳 日々塚跡 御坪遺跡 金網張花形鏡 金網張辻金具 金網張金具 三燈鏡 金網張杏葉 櫛林遺跡2点 水川跡 銅鏡・唐...般鏡 18号土坑ウマ B14号住居跡 銅削川土汎	
28	1月29日	県史編さん室	「山梨県史」通史編1に掲載のため	上野原遺跡 一宮町の底森里遺跡 小平沢古墳 日々塚跡 御坪遺跡 大田原水田保連跡 トヨタ遺跡 豊10記の辺どもさつり風景 豊10記の辺どもさつり風景	
29	2月1日	県史編さん室	「山梨県史」資料編7に掲載のため	大田原水田保連跡 銅削川土汎	
30	2月5日	中道町	テレビ山梨発行「フレッシュマップ」に掲載のため	上野原遺跡 豊10記の辺どもさつり風景	
31	2月6日	朝日新聞社	新聞紙上に掲載のため	大月遺跡 豊中2・3号墳	
32	2月12日	足立町	「竜王町史」に掲載のため	豊中2・3号墳 櫛身鏡 石劍・曲劍 水盤2号墳 試掘手付上器 水盤1号墳 人面形手付上器 土器2点	
33	2月14日	滋澤雅人	東京コダックサロンに展示を以てホームページに掲載するため	上野原遺跡 甲ノ原遺跡 安道寺遺跡 海道前C古跡 一の沢遺跡 桃子原古墳出土 小原蛇 櫛林遺跡 金生遺跡 平林2号墳 金鏡 馬具鏡 櫛身鏡 石劍・曲劍 水盤2号墳 試掘手付上器 水盤1号墳 人面形手付上器 土器2点	
34	2月17日	県史編さん室	「山梨県史」通史編1に掲載のため	桃子原古墳出土 小原蛇	
35	2月20日	東森克彦	「紀・萬・花菖蒲 国際文様の研究」に掲載のため	櫛林遺跡 金生遺跡 中津島遺跡	
36	2月20日	春日保町	「平林2号墳歴史公園」説明板に使用のため	平林2号墳 金鏡 馬具鏡 櫛身鏡 皮狀(縫土器)	
37	3月3日	有隣会社コペット・フォトエージュンサー	「新編ビジュアル日本史」に掲載のため	大月遺跡 大月遺跡 櫛身鏡 皮狀(縫土器)	
38	3月11日	吉川弘文館	「江戸時代の幕と幕制」内「山梨県北都における江戸・横川遺跡」「江戸幕地について」に掲載のため	近世幕藩新築検出状況 第47号公業検出状況 第49号幕新築検出状況 第102号幕構築状況 第13号幕構築上人會 ナイフ岩石器2点	
39	3月20日	山梨日日新聞社	山梨日日新聞に掲載のため	丘の公園第2演跡 古々遺跡 花鳥山遺跡 大月遺跡	
40	3月25日	山梨県生駒学習部屋センター	「山梨県生駒学習部屋センター刊行『山梨學講座(2)』」に掲載のため	18号土坑 周回体出七次疣 コイケのニラ骨 2号住舍 マメ類の内面と現牛アズキの内面 石甃 打痕石井 有孔鉗付土器 ヒトガタ2体 馬の歯 全景 方形刻溝唐物	
41	3月29日	県史編さん室	「山梨県史」通史編1に掲載のため	花鳥山遺跡 大月遺跡 海道前C古跡 安道寺遺跡 櫛身鏡 圓谷塚遺跡 上の平遺跡	

5. 所内研究グループ

縄文研究部会

当部会では、山梨県内出土の縄文土器の資料を集成し、各時期の大別型式で標識となるような資料を抽出し、図版を作成する作業を行ってきた。今年度は、縄文時代前期諸磯b式期の資料を中心に抽出作業を行った。本県において当該期の資料は非常に多く、資料の集成作業で今年度の活動は終了となった。

古墳研究部会

当部会では、山梨県内に所在する古墳についてその所在と現状を把握し、順次それらをカード化する作業を行なっている。本年度は昨年度から継続し調査を行なっている境川村の北部地域に所在する御崎塚古墳、浅間塚古墳などについての踏査を行なったが、遺物の収集には至らなかった。なお、踏査については天候などに左右されることもあり、計画通りの成果を挙げることができないのが現状である。

実験考古学研究部会

山梨県では、奈良・平安時代においては地元の土を使って焼成されたと考えられるような須恵器もみられ、窯跡についても古墳時代後期の境川村牛居沢窯跡や敷島町天狗沢瓦陶兼用窯跡が知られているが、周辺県ほどの生産の隆盛は見られない。当部会では「山梨県内の採取粘土により須恵器製作を行なう」ことを目的とし、実験を重ねている。今年度の活動では6種類の粘土によるテストピース作りの他、実験用窯（灯油窯）の焼成状態を把握するため焼成実験を2回行なった。実験については作成したテストピースを使って、須恵器焼成に必要な1200℃まで焼成温度を上げるため、1時間に200℃上げる6時間焼成と、1時間に100℃上げる12時間焼成をそれぞれ1回ずつ行なった。今年度の活動は須恵器焼成のための準備段階にとどまつたが、今後本格的な焼成実験を行ない、（1）山梨で須恵器生産が低調であった理由の追及、（2）遺跡出土遺物と実験試料との比較による生産と供給関係の解明、（3）須恵器の製作技術の復元などの実験目的を追求していくことを考えていく。

文化財保護行政研究部会

文化庁協力者会議から、「発掘・整理作業の標準化」の全国的な動向を把握し、当センターの現況を踏まえて県内の標準化の方向性を探った。

具体的な課題として、報告書の構成・内容の検討を行った。センター本棟（中道町）の収蔵庫がほぼ満杯であり、本棟収蔵庫へは報告書に掲載した遺物を報告書の図版ごとに収納し、残りは岩塗収蔵庫（甲府市）へ収納している。つまり一連の発掘調査で出土した遺物が報告書掲載遺物と報告外のものと、別々に収蔵されるのが現状である。文化庁協力者会議の「（案）発掘調査報告書の標準化について」の遺物の個別説明では、分類基準を示して、全体の傾向を記述するとある。これらを踏まえると、どのような整理評価の作業を経て、報告遺物が抽出されているのかという資料操作の過程の概要も報告する。また遺物注記の表記は、とくに報告外については具体的に凡例を示し、後世の活用にも耐える資料とする必要がある。このためには整理作業の着手の段階から、発掘調査資料の収集・活用することを十分に計画に入れ、整理作業の効率化を高め、地域のために役立つ成果を提供する必要があると考えた。

「発掘・整理作業の標準化」は重要かつ緊急の課題であり、来年度には当センターで全体として取り組んでいく計画である。

写真技術研究部会

平成15年度に新規に発足した研究グループであり、6名の職員で構成される。本年度については、室内における遺物写真撮影技術の研鑽を目指し、いくつかの課題を設定し技術研修を行なった。第一点目の課題は、「ライティング」であり、同一の被写体（縄文中期深鉢形土器・近世染付碗）を複数パターンの光源方向で撮影し、

その長短を実体験する実習を行なった。また、第二点目の課題は、近年使用頻度が高まりつつある「デジタルカメラによる遺物撮影」であり、特にストロボを併用した撮影技術の習得を目指し、実習を行なった。

6. 第16回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

本研修会は山梨県内の市町村埋蔵文化財担当者を対象に、最新の考古学研究の方法や技術についての研修を行なっているものであり、本年度で第16回目を数える。平成15年度については、より現実的なテーマとなるように企画し、「文化財保護行政」のあり方をメインテーマとして設定した。講師には、滋賀県能登川町埋蔵文化財センターの植山文雄氏をお招きし、平成16年1月19日（月）に風土記の丘研修センターを会場に実施した。演題は「統・元気の出る埋蔵文化財保護行政と考古学」としていただき、氏がこれまで関わってこられた滋賀県能登川町における埋蔵文化財の保護と活用の事例紹介を交えながら、まさに「元気の出る」お話を伺うことができた。参加いただいた市町村埋蔵文化財担当者からも意見や質問が相次ぎ、発掘調査や研究の成果をいかに市民に還元していくのかについて深く考える機会とすることことができた。

7. 遺跡調査発表会

遺跡調査発表会は、山梨県内で当該年度に発掘調査された遺跡についてその調査内容や成果を公表する催しとして上半期、下半期と年2回開催している。開催は民間考古学研究団体である「山梨県考古学協会」と共催で実施しており、スライド上映を交えた説明および出土遺物や写真パネルのミニ展示も併設している。また、各調査担当者からの説明に加え、時代・時期・地域などの特性に応じた研究者からのコメントを追加し、参加者の理解を高める方策もとっている。本年度の発表内容等は下記のとおりである。

■ 2003年度上半期遺跡調査発表会

開催日時 2003年10月11日（土曜日）午後1時から4時10分まで

開催会場 風土記の丘研修センター 講堂

発表1 明野村 調訪原遺跡（発表者 明野村埋蔵文化財センター 佐野 隆）
竪穴住居跡、焼成粘土塊、土偶装飾付土器についての報告。

発表2 南アルプス市 長田口遺跡・中畑遺跡（発表者 南アルプス市教育委員会 保阪太一）
台地上に広がる縄文時代から古墳時代の遺跡についての報告。

発表3 八代町 竜塚古墳（発表者 八代町教育委員会 伊藤修二）
墳丘規模、形状と築造年代についての報告。

発表4 玉穂町 上窪遺跡（発表者 玉穂町教育委員会 今村直樹）
低地における平安時代の水田・溝についての報告。

発表5 敷島町 松ノ尾遺跡（発表者 敷島町文化財調査会・日本産業史研究所 三輪孝幸）
区画溝と埋葬にかかる遺構群、弥生時代の大型住居跡についての報告。

■ 2003年度下半期遺跡調査発表会

開催日時 2004年3月13日（土曜日）午後1時から4時10分まで

開催会場 帝京大学山梨文化財研究所 大ホール

報告 平成15年度の県内埋蔵文化財の調査と保護（発表者 山梨県教育委員会学術文化財課 山本茂樹）
平成15年度の県内における調査動向および埋蔵文化財保護状況についての報告。

発表1 山梨市 足原田遺跡（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 小林弘典）
古墳時代から平安時代における住居跡と土器捨て場についての報告。

発表2 上野原町 大岡々遺跡（発表者 上野原町教育委員会 小西直樹）
平安時代における竪穴住居跡、掘立柱建物跡と出土遺物からみた支配地域についての報告。

- 発表3 大泉村 谷戸城跡（発表者 大泉村教育委員会 渡邊泰彦）
谷戸城の網張りと土壘、空堀など遺構検出状況についての報告。
- 発表4 丹波山村 丹波山金山遺跡（発表者 丹波山金山遺跡学術調査団 十菱駿武）
舟越金山遺跡・源太川遺跡・不動滝遺跡についての報告。

8. 山梨の遺跡展2003

2003年度に行われた発掘調査の成果の一部や資料普及活動の様子を、いち早く県民に紹介することを目的とし、例年通り「山梨の遺跡展2003」を開催した。内容は、2003年度に埋蔵文化財センターによって行われた発掘調査と資料普及活動の概要および市町村教育委員会によって行われた発掘調査の概要を遺物や写真パネル等を使用し、実施した。

開催は、2004年3月13日（土）から4月4日（日）まで、県立考古博物館の特別展示室を会場とし、入場は無料とした。展示の内容は（1）埋蔵文化財センターによって発掘された遺跡の展示、（2）市町村によって発掘された遺跡の展示、（3）パネル展示の3種類の展示を行った。（1）では、足原田遺跡（山梨市：土器類）、井坪遺跡・炭焼遺跡（富士河口湖町：土器類）、小井川・小河原遺跡（田富町：土器類）、鶴沢河岸跡A（鶴沢町：陶磁器類）の出土資料とパネル展示を行い、さらに甲府城跡（甲府市）のパネル展示を行った。また県内遺跡分布調査として青柳河岸跡（増穂町：礎石等）の出土遺物・パネル展示、埋蔵銭貨分布調査と甲府城柳門跡のパネル展示を行った。（2）では、南アルプス市教育委員会の発掘による長田口遺跡・中畠遺跡（土器類・石皿等）、明野村教育委員会の発掘による諏訪原遺跡・梅之木遺跡・永井原V遺跡（土器類・石棒等）、八代町教育委員会の発掘による竜塚古墳（土器類）、玉穂町教育委員会の発掘による上窓遺跡（土器類・木簡等）、大泉村教育委員会の発掘による谷戸城跡（土器類）、敷島町教育委員会の発掘による末法遺跡（土器類・ガラス小玉等）、上野原町教育委員会の発掘による大間々遺跡（土器類）、丹波山村教育委員会の発掘による丹波山金山遺跡（石臼等）の出土遺物を各機関から借りて展示した。（3）では、埋蔵文化財センター資料普及課による出前授業などの様子をパネルを用い紹介した。

これらの展示を通じて、県民の方々に埋蔵文化財への理解、郷土山梨への歴史認識を深めていただくことができたと考えている。



「山梨の遺跡展2003」（2004年3月13日～4月4日）

9. 所内研修

本年度の所内研修については、統一テーマを設定せず、隔月の所内会議日に開催した。研修テーマは、各時期において所員が共通認識を持っておくべき課題や調査事例などの中から適宜選択して毎回のテーマを設定した。研修では、それらの課題等について状況を把握し、所員が相互に意見交換を行なうことができる場となるよう努めた。具体的にはセンターにおける各種課題を検討する委員会（雇用問題検討委員会・センター整備拡充検討委員会・センター将来構想検討委員会など）からの検討状況報告や質疑応答・意見交換、県指定史跡・甲府城跡の発掘調査や整備事業の概況報告、文化庁協力者会議の検討状況報告などを扱った。

10. 寄贈・購入図書

当センターが発足されて21年を超えて、この間毎年約4,000冊が寄贈・購入されている。その内容は、全国各県・各市町村教育委員会などから送られてくる発掘調査報告書・年報・研究紀要、博物館・資料館などの企画展・常設展示の図録、業務に関する考古学・歴史学の専門書、学術雑誌の購入などからなる。平成15年度は4,141冊の登録があり、大塚文庫（約11,000冊）を加えると約70,000冊が現在収蔵されていることとなる。

一方、年々増えている図書に収蔵スペースが不足し、書架の設置箇所も限界に近いため、収蔵方法の検討や新たな保管場所及び閲覧スペース等の整備が望まれている。

年度別登録図書数

年 度	新規登録図書	総 登 録 数
平成9年度以前		37257
平成10	3842	41099
平成11	4252	45351
平成12	3515	48866
平成13	3314	52180
平成14	3395	55575
平成15	4141	59716

(大塚文庫を除く)

第2章 各遺跡の発掘調査等概要

いしはらだいせき

1. 足原田遺跡

所在地 山梨市万力950番地外
事業名 西関東道路建設事業
調査期間 2003年5月22日～11月30日
整理作業 2003年12月1日～2004年3月31日
対象面積 1,400m²
担当者 長沢宏昌・小林孝子・小林弘典



足原田遺跡 位置図

足原田遺跡は笛吹川によって形成された扇状地の西縁に位置し、標高324m前後を測る。当該地は甲府盆地北東縁に当り、標高1,171mの棚山山塊の尾根のひとつである、通称万力ヤマジの南麓に位置する。遺跡立地面は平坦で、南北方向に緩やかに傾斜している。

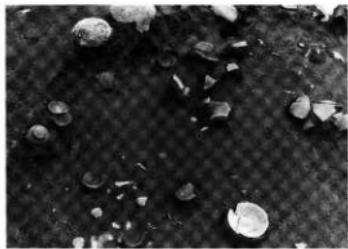
本遺跡の所在する地域に西関東道路が建設されることとなり、予定地内の遺跡の有無が確認された。本遺跡は西関東道路と国道140号とを結ぶアクセス道路部分の試掘調査によって新たに発見された遺跡である。試掘調査は平成14年10月3日～4日に行われ、一部で古墳時代前期・平安時代後期の土師器が出土し、遺構らしき掘り込みも確認されたため、該期の集落の存在が予想された。

調査対象域はほとんどすべてが農地である。試掘調査の結果によって絞り込まれた長さ210m、最大幅14mが本調査の対象となったが、この範囲内には農道や水路等が縱横に走っていた。さらに畑の出入り口確保などの問題もあり、これらを調整しながら調査を実施した。調査の結果、住居跡6軒と谷の斜面に形成された土器捨て場が確認された。住居跡6軒はすべて平安時代末に位置付けられる。一方、谷に捨てられた土器はすべて古墳時代前期後半に位置付けられるものである。

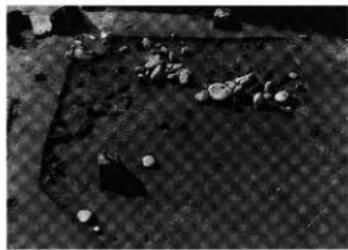
平安時代末の住居跡は山梨市内でも確認例があり、本遺跡周辺では山梨厚生病院脇で数軒調査されるなど、比較的多く調査されている。カマドがコーナーに構築されており、柱状高台付壙が出土していることから、11世紀代に位置づけられる。なお、1軒は火災住居であり、炭化した上屋構築材と思われる部材の一部が確認された。

今回の調査で最も注目されるのは、調査区中央部に確認された谷に形成された土器捨て場である。出土した夥しい量の土器中に完形品は一点もなく、すべてが破片であった。土器中には10～70cmの大碟が混ざり、碟の上下にも土器は確認されていることから、土器捨て場形成中に碟の投棄も行われたと考えられる。また、数点の球根類炭化物もまとめて出土した。今回面作成して取り上げた土器片は一万点ちかくにも及ぶ。このすべてが古墳時代前期に収まる訳であり、極めて短期間に形成された土器捨て場であることが判る。当然のことながらこの周辺にはこれだけの土器を廃棄した集落が存在する訳であるが、今回の調査ではこの時期の住居跡は全く確認されなかった。また、今回の調査区域近辺でも確認された例を知らない。西関東道路関係の一連の調査で、落合地区の中沢遺跡および上岩下地区的武家遺跡において、この時期の住居跡や方形周溝墓が山梨市内では初めて確認されたが、本遺跡と中沢遺跡とは直線距離で約1.3km、武家遺跡とは1.8km離れている。今回調査した地点のきわめて近くにこれらの土器を廃棄した大規模な集落が存在するはずであり、今後注意が必要である。また、今回の調査では東西方向に延びる谷の南側斜面に形成された土器捨て場の一部を調査したが、谷頭部分や谷の反対側（北側）斜面の状況については全く不明なままであり、土器捨て場全体の規模を把握する意味でも、今後の周辺開発事業に対して注視する必要がある。

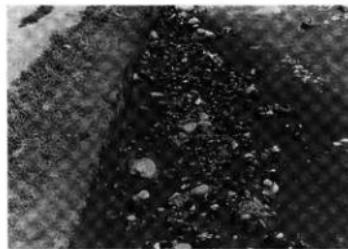
基礎整理は12月から開始し、3月末まで行った。プラスティック箱で65箱が出土しており、15年度は洗浄・注記と一部の復元作業を行った。



1号住居跡遺物出土状況



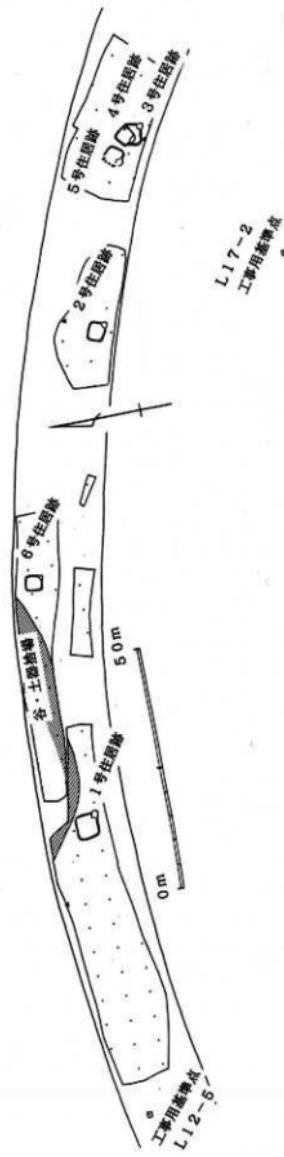
3・4号住居跡全景



谷遺物出土状況



谷遺物出土状況



足原田遺跡・調査全体図

いっぽいせき すみやきいせき
2. 井坪遺跡・炭焼遺跡

所 在 地 南都留郡富士河口湖町（旧河口湖町）
河口字井坪520-1外・字炭焼317-1外
事 業 名 国道137号河口2期バイパス建設事業
調査期間 2003年6月9日～11月28日
調査面積 2,600m²
担 当 者 高野玄明・正木季洋

井坪遺跡・炭焼遺跡の両遺跡は富士河口湖町（旧河口湖町）河口に所在し、富士山北麓、御坂山地の御坂山・三ツ峠山の南麓、河口湖北東岸の標高842～845mの地点に所在する。

両遺跡は2002年11月に河口2期バイパス建設に先立ち、路線内の試掘調査を行い、平安時代の集落跡や烟跡等の遺構及び、それに伴う遺物出土の結果、合計4箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認され、今回の本調査に至っている。この、河口湖周辺は縄文時代から中近世に至る遺跡が数多く存在していることが知られている。また、調査が行われた河口地内は、古代の官道が通過する所であったと言われており、平安時代の古文書である『延喜式』「卷28兵部省諸国駅伝馬条」所載の甲斐国3駅の1つである「河口」の駅の推定地がこの付近とする説がある。

本調査が行われた両遺跡の概要については、下記のとおりである。

○井坪遺跡

本遺跡は、調査区を水路や道路で分断されている都合上、北から1区～3区に分けて調査を行った。地表下1.0～2.0mに見られる黒色火山灰層直下に本遺跡の遺構確認面が見られ、この黒色火山灰を除去すると、畦及び畝状の遺構が調査区全体に広がっている状況が窺えた。畦は、規則的に区画を呈している様子は全く見られない。畝状遺構は地表面全体が凸凹状になり、表面には炭化材が集中している部分が數カ所検出されている。畦及び畝については、現在、サンプリングしてきた土壤の自然科学分析を行っている状況であり、これにより遺構の性格や用途等が明らかになるものと思われる。また、畦及び畝状遺構を掘り下げた2区の中央部西側壁付近からは土器集中箇所が見られ、縄文時代後期中葉の加曾利B式の土器片約300点が3m四方に分布している状況が見られた。この他、検出された遺構は、溝状遺構や土坑などが検出されている。

○炭焼遺跡

地表下0.6～1.0mの黒褐色粘質土中に遺物包含層が確認されている。遺物は小破片ではあるが、縄文時代中期、弥生時代後期、平安時代の土器及び中近世の土器や陶磁器片が確認されている。また、黒褐色粘質土の下部を掘り込む土坑が15基確認されている。数基の土坑の覆土中から平安時代の土師器片の出土が認められることから、該期の遺構と考えられる。また、焼土遺構も同じ黒褐色粘質土を握り込んでいることから同時期の所産と思われるが、出土遺物が皆無のため詳細な遺構の性格等は不明である。

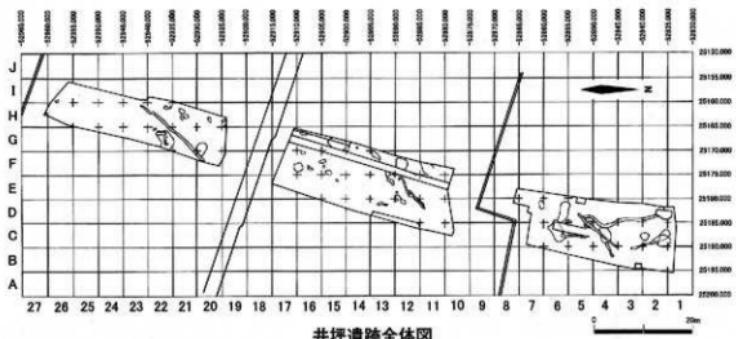
本遺跡には、住居跡など定住した痕跡は見られないものの、各時代に渡る遺物が検出されており、これは、本遺跡周辺に存在する遺跡からの流入によるものと推測される。

なお、炭焼遺跡について、道路を境にした南側調査区については今年度未調査であり、来年度に対応することになっている。（※当初予定面積1,000m²、今年度終了面積600m²、未調査分400m²）

今回の調査では古代の官道や駅跡の遺構こそ検出できなかったが、富士山起源と見られる火山灰層や山の神川上流から押し流された数次に渡る砂礫の堆積が確認され、この地が噴火による降灰と水害とにさいなまれてきた歴史を持つ地域であることが明らかになり、今回調査を実施した両遺跡については比較的災害が少なかつた地域で、かろうじて消失を逃れたものと推測できる。



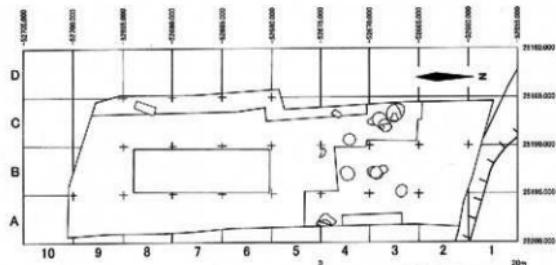
位置図



井坪遺跡 7号歎状遺構検出状況



井坪遺跡土器集中区遺物出土状況



炭焼遺跡作業風景



炭焼遺跡土坑完掘状況

3. 鮎沢河岸跡 A

所 在 地 南巨摩郡鮎沢町白子明神地区（鮎沢町1421外）

事 業 名 水防災対策特定河川事業

調査期間 2003年7月28日～2004年1月30日

調査面積 5,515m²

担 当 者 保坂康夫・野代恵子・一瀬一浩

甲府盆地を代表する河川である笛吹川と釜無川の合流点から約3km下流に鮎沢河岸跡は位置する。この地は駿州街道と甲府盆地内の東西陸路交通の結節点ともなっている。「鮎沢河岸跡」は江戸時代に開かれた富士川舟運の船着場であり、青柳河岸・黒沢河岸とともに甲州三河岸として大いに発展し、今日の鮎沢町発展の基礎となっている。この事業は2000年から発掘調査を着手したもので、これまでに甲府代官所支配下の年貢米を集積した御蔵台跡・御米蔵跡・道路跡・河岸問屋街跡などを確認している。

河岸問屋街跡最北部（A 2区・X 1区・X 2区・X 3区）

今年度の調査区は、西を国道52号に、北を南川に限られる事業対象地の最北隅にあたる。一面に焼上がり広がる面を確認し、この面からは石垣が集中して発見された。この焼けた面は、文政4年（1821）の大火にあたるものと考えられる。焼土を取り除いていくと、多くの陶器片とともに礎石が並んで現われた。石垣は地割を示しており、礎石を伴う焼失家屋跡には、建築部材であったと考えられるホゾ穴や組み部が残る炭化材が多く残されていた。その他、壁材であったと考えられる漆喰が焼けたものや、竹を格子状に組んだもの、あるいは布なども炭化した状態で発見されている。厚い焼土が堆積する範囲は調査区全体に及んでおり、この火事が文献にもみえるようにその後の河岸存続を脅かすような大きな火災であったことを物語っている。この面で確認された地割については、江戸時代の絵に描かれたと考えられる「海野家絵図」の地割とほぼ一致することが明らかとなった。石垣に囲まれた地割の中に並ぶ礎石については、ほぼ同じような位置に2つずつ並ぶものも見られ、建て替えがあったことも想定される。

焼失家屋の中には、礎石周辺から多くの寛永通宝がばらまかれた状態で発見されているところや、錢貨の穴に紐などを通してあったかのように10～20枚重なった状態で出土しているものもあり、何らかの地鎮的行為が行なわれていた可能性もある。また、礎石は残されていなかったものの、「海野家絵図」にあるように、屋敷の敷地内であったと考えられる場所からは穴の底に少量の灰を入れ、その後擂鉢を埋設した遺構を確認した。擂鉢の中には少量の灰と多くの炭が充填されており、この中からも寛永通宝が6枚ほど出土した。これまでの調査でも幾つかの地鎮的行為の痕跡が指摘されており、このような実用性に乏しい遺構については祭祀的な性格をもつものもある可能性もある。この他にも、拳大などの石で開われた深さ50cm程度、150cm×50cm規模の石囲遺構が1基、同じ構造をもつ70cm×30cm規模の石開遺構が1基確認された。どのような性格をもった遺構であるか断定できないが、内部には焼土塊・炭・燃えた繊維状のものが多量に残されていることから、中で火を燃やした炉のようなものであったと考えられる。その中からは50本を上回る大小様々な大きさの釘も出土している。釘がついたままの材を燃料として燃やしたものとも考えられるが、釘を取り外してリサイクルせずに燃料にしてしまったものかどうか疑問は残る。

文政の大火面からさらに50cm強ほど掘り下げた位置からは陶磁器を伴なう層を、そこからさらに150cmほど掘り下げた位置からは礎石や石列を伴なった面を確認した。この面については、文政段階の地割と比べてその位置や方向が踏襲されておらず、出土する陶磁器についても文政面とは異なる。また、磁器に比べて陶器の占める割合が圧倒的に多く、陶磁器の形態的な特徴などから文政の大火よりもおよそ100年ほどさかのほる時期のものであると考えられる。この面では、土地条件がそれほどよかつたとは思えない富士川寄りの区画から、茶壺



鮎沢河岸跡 位置図

やお歴黒壺として使われた水注などの非日常的な器種が見つかっており、街道から離れた川に近い不安定な場所でもこのような器種を所有できる階層の人々が暮らしていた可能性もある。

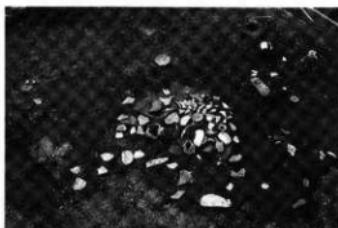
今回調査を行なった地区については、河岸にともなう問屋街域という性格付けがなされているが、今回の調査で見えてきたのは庶民の日常的な暮らしの場であった。これまでの調査でもいわれているように、街道沿いには店舗が並ぶ表の顔があり、街道から路地に入った場所ではそれを支える人々の日常的な暮らしがあったことを物語っている。これは現在の鰐沢の町並みとも共通している。時代が変わっても土地利用の傾向は息づいているといえるのではないだろうか。一方、それからおよそ100年ほどさかのぼった時期には、土地条件がよくない川側の区画から茶壺、水注、水滴など非日常的な器種が出土していることから、これとは全く異なった町並みが広がっていた可能性が高い。



本年度調査区全景（上空より）



石圓遺構



遺物出土状況

こいかわ・こがあらいやま
4. 小井川・小河原遺跡

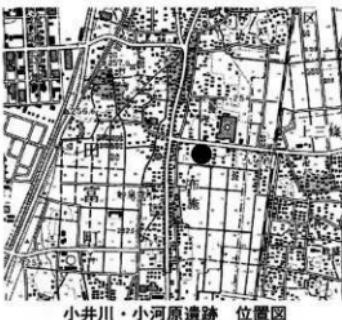
所 在 地 中巨摩郡田富町布施地内

事 業 名 新山梨環状道路建設

調査期間 2003年10月1日～2004年1月6日

調査面積 2,000m²

担 当 者 小林 広和・猪股 一弘



小井川・小河原遺跡 位置図

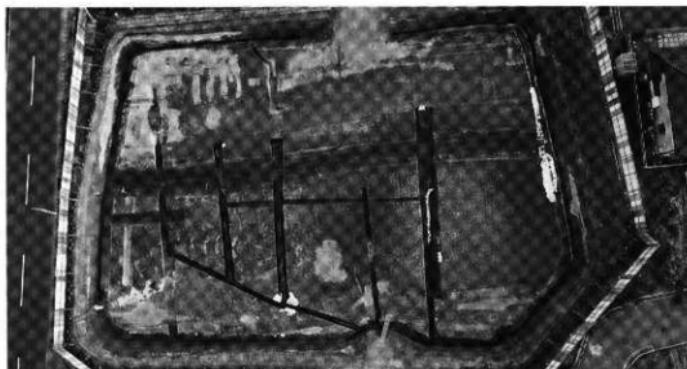
本遺跡の存在する田富町は甲府盆地の南部に位置し、隣接する玉穂町・昭和町とともに県下で最も平坦部の多い低地で、内陸県の山梨県では数少ない山のない町である。また、遺跡付近は標高約252mで、西方を北から南に向かって流れる釜無川、南部を東から西に向かって流れる笛吹川によってもたらされた土砂や疊の堆積作用によって生じた沖積地、すなわち氾濫原地帯である。

調査区域は、低地であるとともに地下水位も高く、釜無・笛吹両河川の合流点方向に流动するかなり圧力の高い地下水の自噴帶である。そのため、水路を遮断するためのシートパイルを事前に調査区の全周囲に設置するとともに、排水用の溝と水汲み上げ用の釜場を設け、水中ポンプで排水しながら発掘を実施した。

試掘調査の段階で溝・桶等が確認されていたため、重機による表土剥ぎ実施後、東西に数本トレンチを設定し、土層を確認しながら人力によって精査した。また、雨天時の水量や流水方向によっては土層面などの土砂の崩れがあったので、土囊を積み上げながら慎重に調査を進めた。

その結果、南北に走る杭打ち溝が2条、桶の底部や石臼とともに検出された墓が4基確認された。杭打ち溝の一つ（2号溝）は巾が50cm前後で小規模であり、搅乱のため調査区域途中で消滅していた。もう一つ（1号溝）は自然溝に人工溝が重複している状態で、縁には木や竹で土留めが造られている箇所が検出された。遺物に関しては、中世に属する若干の土器や陶磁器等の他、桶底部、石臼、主に杭打ち溝から陶磁器、土器、鉄器、しゃもじ、椀、装飾品、古錢など江戸時代後期と思われる生活に密着した遺物が出土しており、中には完形品も含まれている。また、これら遺物の他に魚の骨・鱗、昆虫類、植物なども採取された。

調査区域近辺にはかつて寺院が存在し、墓地も調査区西側に隣接していたことが確認されている。このことと、上述したことと総合的に考えると、江戸時代の住民の生活は寺院を中心とした空間により確立されていて、身近な溝が生活のあらゆる面で便利に利用をされたのではないかと想像される。



調査区全景（空撮）



シートパイルと排水用の溝



椀出土状況



土器出土状況



調査区全景（南東から）



桶底出土状況



1号溝完掘状況



1号溝土層（3号トレンチ北壁）

こうふじょうあと
5. 甲府城跡（県指定史跡）関連事業

所 在 地 甲府市丸の内1丁目地内

事 業 名 舞鶴城公園整備事業

調査期間 （4月1日～3月31日）

調査面積 1,800m²

担 当 者 宮里 学・植間 美季江・西海 真紀

県指定史跡甲府城跡では舞鶴城公園整備事業を実施しており、本年で14年目をむかえた。これまでに鍛冶曲輪門、稲荷門、内松陰門の三つの門が復元され、平成16年3月に稲荷櫓復元工事が完了した。

今年度は、平成16年度の「甲府城跡総合調査報告書（仮）」刊行にむけての整理作業をすすめてきた。主な内容は、瓦、陶磁器、石造物などの出土遺物の実測作業や分類作業、原稿執筆作業である。あわせて資料調査も実施し、甲府城関連絵図の確認調査を国立公文書館、しろく古地図と城の博物館富原文庫、静嘉堂文庫、県内個人宅など数回にわたり資料調査をおこなった。

7月10日に15年度第1回甲府城跡調査検討委員会を開催し、稲荷櫓の整備状況やおよび総合報告書刊行へむけての整理作業状況を報告し、指導・助言を得た。

そのほかに稲荷櫓公開に伴う周辺整備、公園内の園路等の整備工事に関する立ち会い調査を継続的におこなった。

本年度は、稲荷櫓の屋根が概ね完成した6月7日に県民を対象とした第4回稲荷櫓見学会を実施した（約300名参加）。内容は稲荷櫓の内部見学のほか、瓦葺きや土壁づくりの伝統技術の説明をおこなった。また、土壁塗り体験、瓦葺き体験、児童を対象とした木組み競争などのコーナーも設け、伝統技術にふれ、体験できる見学会とした。

また、広報活動として、当センターの広報誌「埋文やまなし」第15号甲府城特集で、稲荷櫓および櫓台石垣の復元・改修工事にかかる伝統技術についてとりあげた。発掘調査によって明らかになった石積の技術や改修作業の様子を紹介し、稲荷櫓についても建設工事にもちいられている伝統技術を中心に紹介し、文化財についての理解を深めてもらえるような内容とした。また、県土木部発行の公園内で配布されるパンフレットである「舞鶴城公園」の作成や、公園内の案内板と稲荷櫓内に設置される解説板の作成に協力し、甲府城の歴史、発掘調査や整備の根拠となった資料などをもとに公園内の文化財について、親しみやすい内容を心がけた。

このほか、1月22日～23日におこなわれた第1回全国城跡等石垣整備調査研究会に出席し、稲荷櫓台石垣の改修工事についての実施成果を報告した。



位置図



整理作業のようす（瓦の分類作業）



整理作業（出土品の実測作業）



甲府城跡調査検討委員会のようす



絵図の確認調査



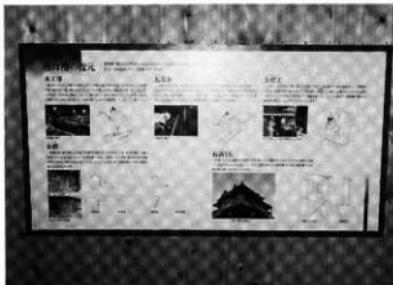
見学会のようす（職人さんによる瓦の説明）



見学会のようす（野地板葺体験）



見学会のようす（土壁塗り体験）



稻荷櫓内 展示パネル

6. 県内分布調査

6-1 県道17号（七里岩ライン）

拡幅工事に伴う試掘調査（能見城）

所在地 菲崎市穴山町夏目4062

遺跡名 能見城跡

調査期間 2003年4月17日～18日

調査面積 5m²

担当者 長沢 宏昌・小林 孝子・小林 弘典

調査対象地は甲府盆地の北西部を流れる塩川と釜無川の間の台地上に位置する。調査は土壌状の盛土の平面図及び等高線図を作成し、重機でカットし、断面観察を行った。その結果、盛土部分

からは古い水道管の埋設及び昭和初期の瓦破片の廃棄層が認められ、擾乱を受けていることがわかった。また、土壌下層部には3層から4層の粘土層が堆積していたが、ローム層に粘土層が混入する形態は菲崎市の基本土層にはよく見られるものであることから、下層部は土壌とは無関係の自然な堆積であることがわかった。



試掘調査 位置図

6-2 県立射撃場建設に伴う試掘調査

所在地 菲崎市穗坂町三之歳字牛ヶ馬場地内

遺跡名 牛ヶ馬場遺跡

調査機関 2003年4月21日～5月21日

調査面積 96m²（調査対象面積 91,000m²）

担当者 猪股一弘・村石真澄・野代恵子・一瀬一浩

穗坂町は「延喜式」に掲げられる甲斐の御牧のひとつとして名高い穗坂牧で知られる。調査対象地は複数の尾根とそれらに開まれた沢を包括した地形であることから、尾根上や比較的緩やかな斜面部を選定してトレンチを24本設定した。沢部については踏査を行なった。土層は尾根や尾根上の位置によって異なるが、基本的にには大小様々な風化岩片が含まれていることから、より上方から崩落してきた土や岩盤片などが粘土化して堆積したものと考えられる。いずれからも遺物・遺構などは確認されなかった。ただし、対象地に隣接する尾根上の畑からは黒曜石や土器片が採集されたことから、周辺の緩斜面部や広い尾根上には遺跡が存在する可能性が高い。



試掘調査 位置図

6-3 西関東道路建設に伴う試掘調査（上町田遺跡）

所在地 東山梨郡春日居町鎮目1186-1番地

遺跡名 上町田遺跡

調査期間 2003年5月8日～9日

調査面積 20m²（調査対象面積 700m²）

担当者 長沢 宏昌・竹本 健太郎

遺跡は笛吹川によって形成された扇状地の西縁、兜山山塊の山裾に位置する。遺跡立地面は平坦で、南西方向に緩やかに傾斜している。試掘は、対象範囲に幅2m、長さ10mのトレンチを3本設定し、重機によって掘削した後、人力により遺構・遺物の有無



試掘調査 位置図

を確認した。いずれのトレンチでも、約50cmの表土下に灰色～暗灰色粘質土が50～60cm程度堆積しており、その下は砂礫層もしくは黄色砂質土となっていることが確認された。周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内ではあるが、遺構・遺物とも全く確認されず、本調査の必要性はないと判断した。

6-4 裁判所長宿舎建て替え工事に伴う

試掘調査（甲府城下町遺跡）

所在地 甲府市武田1丁目88-1

遺跡名 甲府城下町遺跡

調査期間 2003年5月14日

調査面積 4.18m²（調査対象面積 334.5m²）

担当者 綱倉邦生・竹本健太郎

宿舎の東側に3本のトレンチを設定し、掘り下げを行った。この結果、地表下15～30cmの位置で近世・近代の遺物包含層が確認された。この遺物包含層は暗褐色を呈し、全てのトレンチに認められるが、この土層からは明確な遺構は検出されなかった。また、1m65cmの位置まで深掘りを行ったが、遺構・遺物は出土していない。土層は1m程度の位置より細砂層に変化する。



試掘調査 位置図

6-5 山梨大学クリーンエネルギー研究センター

増設事業に伴う試掘調査（武田城下町遺跡）

所在地 甲府市宮前町7-32 山梨大学内

遺跡名 武田城下町遺跡

調査期間 2003年5月20日

調査面積 2m²（調査対象面積 200m²）

担当者 長沢宏昌・小林弘典

調査対象地は武田氏館跡の南東に位置し、山梨大学クリーンエネルギー研究センターの北側に隣接する花壇である。調査区内の地下に数本のパイプが通っていたため、地下にパイプのない2m²の部分に1本のトレンチを設定した。2m²の内半分は搅乱となっており、1m²分のみの観察となった。暗褐色粘質土・褐色粘質土がブロック状に含まれる暗褐色粘質土が確認され、これらの層位全てにおいて遺構・遺物の出土は認められなかった。



試掘調査 位置図

6-6 県立女子短期大学校舎改築に伴う試掘調査

所在地 甲府市飯田5丁目11-1地内

調査期間 2003年7月29日

調査面積 14m² (調査対象面積 100m²)

担当者 保坂 康夫・竹本 健太郎

改築予定建物に隣接した地点に試掘溝を設定し、遺構・遺物の有無の確認調査を行った。小型重機で3本のトレーナーを掘削し、人力で壁面、底面を精査した。1・2トレーナーは1m×4m。3トレーナーは1.5m×4mで、深さは1・3トレーナーで1.4m、2トレーナーで1.2mである。

土層は、1トレーナー、3トレーナーでは地表下40~50cmが褐色土、碎石などの造成層で、以下50cmから140cmでは砂礫層、黒灰泥質シルト層(土壤化)、白色砂層、白灰シルト、黒灰泥質シルト層(土壤化)、黒色泥質層(土壤化)、白色粘砂層が見られた。黒灰泥質シルト層、黒灰泥質シルト層、黒色泥質層は土壤化していると見られ、この層の上面で一時的に地表面が形成されたと思われるが、いずれも河川性の堆積物である。2トレーナーでは砂礫層中に深い搅乱が見られ、地表下120cmまで廃棄物が及んでいた。1~3トレーナーにおいて遺物・遺構などの存在は確認できなかった。



試掘調査 位置図

6-7 山梨県庁構内駐車場建設に伴う

試掘調査 (甲府城跡)

所在地 甲府市丸の内1丁目79番地外

事業名 山梨県庁構内駐車場建設地の発掘調査

調査面積 437.7m²

担当者 宮里学

本調査は、県庁構内駐車場建設予定地を対象におこなわれた発掘調査であり、当該地は「県指定史跡甲府城跡」の範囲外であるが、従来より「柳門」(別称として西門・柳御門など)の所在地として留意してきた経緯がある地点である。

柳門は、甲府城の追手門・山手門に次ぐ格式のある門として、重要視されてきた門でもあるが、築城期の資料が少ないため当初の様相は不明であり、明確に形状や大きさが文献史料に描かれるようになるのは寛文年間(1661~73)以降である。

明治時代になってからは、旧陸軍史料『大日記』にたびたび登場するが、明治10年以降に門・番所・堀などの構造物は撤去あるいは移築され、周辺部の石垣・堀も近代化のなかで埋め立てられ、市街地化されている。

調査方法は、事前に江戸期の絵図確認や、現況で石垣の一部と考えられる石材が地表面から露出していたことなどから、柳門に連絡する石垣と堀が検出されると想定したうえで、設定したトレーナーを重機掘削し、人力で精査・確認することとした。

当該地の南側で南北方向、長さ6×幅1×深度1mで設定したトレーナーでは、北端で面を南に向むけた扁平な石材を確認した。

これは、江戸期の絵図から階段石であることが判明した。なお、トレーナーの底部付近では奈良・平安時代に属する土器類と土坑の断面も確認された。

当該地の中央に設定した長さ10×幅2×深度0.5~2mのトレーナーをL字形に設置し、東西方向へ延びる石垣(以下、東西石垣)と南北に伸びる石垣(以下、南北石垣)および階段石を確認した。

東西石垣は、絵図などから柳門エリア(虎口付近)と堀を区画する石垣と判断した。石材の加工状況では「野面石(無加工の自然石)」も使われているが、「加工石」の方が多用されていた。さらに積み方・目地(石同士の隙間)の様相から築城期石垣の特徴がないため、築城期以降の江戸期に手を加えられた石垣であると判断できる。天端部分は削平され消失しているが残存部の勾配が70°前後を示している。この数値は統計的に天端付



試掘調査 位置図

近の角度であることから、消失高は推定で1~1.5mと推定することができる。

南北石垣では、石垣とこれにともなう裏栗石を検出した。絵図などから柳門の北側袖から北方へ延び（JR甲府駅北口付近まで）、城内と堀を区画する石垣でトレンチ1の東西石垣とは入積みで連結されていると判明した。

石材は「野面石」が主体となっている積み方であることから築城期石垣と判断できる。また、1m以上の大きな石材が使用されていることから「見栄え」を意図的に表現した可能性が高い。裏栗石については円礫が主体となっている。

当該地の北側で、長さ3×幅2.5×深度1.5mのトレンチを設置し、上述した南北石垣の北側延長上的一部分を確認した。やはり、南北石垣と同じく城内と堀を区画する石垣であり、石材は「野面石」が主体となっている積み方であることから築城期石垣と判断した。さらに、1m以上の大きな石材が使用されていることから同様に「見栄え」を意図的に表現した石垣である可能性が高い。

今回の調査により、江戸時代の絵図に描かれている甲府城の構造と一致する石垣、階段の一部を検出し、確認することができた。

石垣はその特徴から南北石垣は築城期、東西石垣は江戸期に属する特徴を持つものであることがわかり、両者は入積みで連結していることが判明した。石垣構造は裏栗石と盛土を伴うものであった。

また、検出された石垣の延長線は磁北に対して、南北石垣は東へ15°、東西石垣は北へ20°の差をもっており、現在の土地区画とはズレを持っている。

さらに、検出された石垣は天端付近は明治期以降に除去され消失しているが、埋設部分は良好に残存していることが判明し、石垣、石段の一部は現況地表面に露出していることからも、今後周辺地域の掘削時には留意する必要が認められた。

今回の調査を経て、南北石垣と東西石垣の人積み部分を基点に柳門を中心とした甲府城の位置関係が明確になった。

調査終了後は、当該地は盛土で養生したうえ埋設保存とし、現在は県庁構内駐車場となっている。また、着手前から大小の石材が転石として存在していたが、埋め戻しに伴いトレンチ1にあわせて埋設した。小型の割石・加工石などは除き、個体数は19石で、埋設深度は標高273.3mの地点である。



トレンチ掘削の状況



検出された石段



検出された東西石垣



調査範囲全景

6-8 あけぼの医療センター改築工事に伴う試掘調査

所在地 藤崎市旭町上条南割字御勤使3294他

調査期間 2003年9月25日～26日

調査面積 90.5m²（調査対象面積 66,000m²）

担当者 綱倉邦生

工事を実施する地点は御勤使川堤防跡群に近接するため、試掘調査を行うこととなった。平成14年度の試掘調査により、建設予定地西側における遺構存否の確認は終了したため、予定地内に5本のトレンチを設けて掘り下げを行った。この結果、地表下1～2mの盛土層の下に自然堆積と考えられるシルトと砂層の互層が存在したが、遺構・遺物は出土しなかった。最終的に2.5mの位置まで深掘りを行ったが、堤防関連の遺構は検出されなかった。



試掘調査 位置図

6-9 西関東道路関連取り付け道路建設に伴う試掘調査

所在地 東山梨郡春日居町下岩下字柳田地内

調査期間 2003年11月26日

調査面積 98.4m²（調査対象面積 925m²）

担当者 坂本美夫

今回の調査区は平成14年度の試掘調査地に挟まれた道路建設予定地で、南北方向のトレンチを4本設定し、重機による掘削後、人力でトレンチ壁面・底面を精査し、遺構・遺物の確認を行った。土層の堆積は基本的に粘質土と砂質土の互層になっており、1.2m程の深さで平等川の旧河道とみられる砂礫層が確認された。自然の溝が確認された以外は遺構は確認されなかった。遺物も表土下の砂質褐色土層中より土師器小片が1点確認されたのみである。



試掘調査 位置図

6-10 国土交通省河川改修工事に伴う試掘調査

（青柳河岸跡）

所在地 山梨県南巨摩郡増穂町青柳地先

遺跡名 青柳河岸跡

調査期間 2003年11月26日～12月16日

調査面積 2,086m²（調査対象面積 160,000m²）

担当者 今福利恵

調査対象地は富士川堤防内の河川敷となるが、その中に五明川とその小堤防が継続しており、この護岸施設を除いた平坦地に37ヶ所の試掘坑を設定した。青柳河岸跡周辺は古い河川改修により削平されているが、部分的には遺構が残っていることが確認でき、礎石や江戸から明治期の陶磁器片が多数出土した。また、川岸付近からは地表下約5m程より打ち込まれた杭が多数検出された。杭には手斧痕が残り、江戸期頃のものと思われる。試掘調査を行った中では、全体で約13,500m²が適切な保護措置が必要となる。



試掘調査 位置図

6-1-1 地滑り対策工事に伴う試掘調査（六郷町一の坪地内）

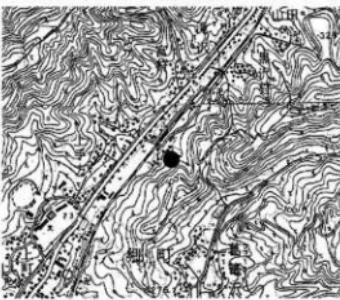
所在地 西八代郡六郷町一の坪地内

調査期間 2004年1月7日～8日

調査面積 8m²（調査対象面積320m²）

担当者 綱倉 邦生

工事を実施する地点は中世の包蔵地である一の坪遺跡に近接するため、試掘調査を行うこととなった。施工範囲内に2本のトレンチを設け、掘り下げを行った。この結果、地表下20cm程度の位置において近世の遺物包含層が確認されたものの、中世の遺物は出土しなかった。



試掘調査 位置図

6-1-2 地滑り対策工事に伴う試掘調査（赤池氏屋敷）

所在地 西八代郡下部町根子字中河原地内

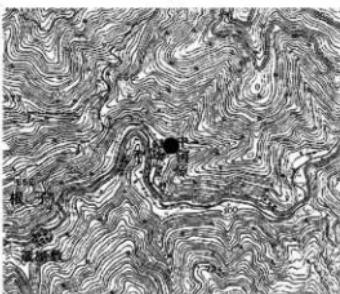
遺跡名 赤池氏屋敷

調査期間 2004年2月12日～13日

調査面積 6m²（調査対象面積296m²）

担当者 綱倉 邦生

施工範囲内に5本のトレンチを設けて掘り下げを行った。この結果、1～3トレンチにおいて地表下70cm程度の位置まで、山から崩落したと捉えられる茶褐色土層が確認された。また、沢に近い4・5トレンチには水路造成に伴う硬化面が認められたものの、中世の造構・遺物は検出されなかった。



試掘調査 位置図

6-1-3 大野築堤護岸工事に伴う試掘調査

所在地 南巨摩郡身延町967番地先

遺跡名 大野堤防遺跡

調査期間 2004年2月16日～23日

調査面積 1,036m²（調査対象面積30,000m²）

担当者 長沢 宏昌・小林 弘典

調査対象地は日蓮宗本山・大野山本遠寺東側の富士川河川敷であり、来年度以降の建設地を対象に旧堤防の有無を確認した。調査は富士川右岸の上流部から下流部に向かって、流れに直交する方向に16本のトレンチを設定し、堤防を断面で確認することを試みた。その結果、全てのトレンチで砂礫の自然堆積が確認され、人工的な堤防の痕跡は確認されなかった。

ただし、立木や人家の存在する部分に明らかな石垣を伴う土手状の高まりがあり、これが旧堤防である可能性は考えられる。しかし、今回の調査ではこの部分にトレントを設定することができなかつたため、工事着手前に再度試掘調査を行うなどの検討が必要である。



試掘調査 位置図

6-14 一般国道139号都留バイパス建設工事に伴う試掘調査（玉川遺跡・天正寺遺跡）

所在地 都留市玉川字金山地内・井倉字赤沢平地内

遺跡名 玉川遺跡・天正寺遺跡

調査期間 2004年2月16日～24日、3月15日

調査面積 約142m²（調査対象面積5,450m²）

担当者 高野玄明・正木季洋

予定路線内に幅1.2～2.0m、長さ2.0～25.0mのトレーナーを9本設定し、ミニユンボ及び人力により段階的に掘り下げ、遺構・遺物の確認を行った。玉川地内においては、黒色粘質土中から縄文時代の土器片、平安時代末から中世の青磁・白磁片、常滑片等が中心として確認され、出土遺物に伴い溝状遺構等のプランが確認されている。天正寺地内については、2.0m×4.0mの試掘トレーナー1本を設定し、調査を行った結果、縄文時代と思われる土坑のほか、同時代の土器片、石器の剥片、中世の天日茶碗の破片が確認されている。このため、周知である玉川遺跡の範囲を追加修正し、新規の埋蔵文化財包蔵地として天正寺遺跡を確認した。

なお、天正寺西側山林の一部約2,000m²を対象に3月15日に人力による試掘を追加実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。

6-15 工業振興地域内における試掘調査 (野牛島遺跡・西之久保遺跡)

所在地 南アルプス市野牛島字西ノ久保2888番地他

遺跡名 野牛島・西ノ久保遺跡

調査期間 2004年3月8日～11日

調査面積 600m²（調査対象面積3700m²）

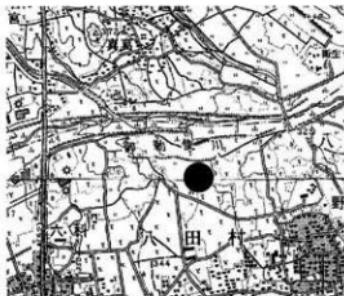
担当者 長沢宏昌・小林弘典

今回の対象地は、西に大塚遺跡、南東に石橋北屋敷遺跡が存在する位置関係であり、本調査は行われていないものの本遺跡が周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、平安時代～中世の遺構の存在が予想されていた。調査はトレーナーを22ヵ所設定し、土層堆積状況と遺構・遺物の有無を確認した。

その結果、対象域北側に竪穴住居跡2軒と同時期と思われる溝・土坑などの遺構が確認されたが、南側はかつて遺構が存在したであろう生活面は全て削平され、遺構・遺物とも全く確認されなかった。



試掘調査 位置図



試掘調査 位置図

6-16 新山梨環状道路建設工事に伴う試掘調査 (小井川・小河原遺跡)

所在地 中巨摩郡田富町布施地内

遺跡名 小井川・小河原遺跡

調査期間 2004年3月16日～19日

調査面積 約407m² (調査対象面積 5,780m²)

担当者 高野玄明・正木季洋

予定路線内に幅1.3m、長さ8.0～33.0mのトレンチを19本設定し、重機により段階的に掘り下げ、人力での精査により遺構・遺物の確認を行った。その結果、法星院墓地跡から近世の円形及び方形の木棺墓や、中世の様式を呈する五輪塔や石塔類の部材等が検出された。この他、遺構として、溝状遺構や土坑、杭列等が検出され、それに伴い土師質土器片、陶磁器片等が出土している。



試掘調査 位置図

6-17 山梨大学工学部総合研修棟改修に伴う 仮設プレハブ建設立会調査 (武田城下町遺跡)

所在地 甲府市武田4丁目4-37 (山梨大学工学部敷地内)

遺跡名 武田城下町遺跡

調査期間 2003年5月23日

調査面積 11.7m² (調査対象面積 173m²)

担当者 坂本美夫・高野玄明

事業予定地内に重機により幅0.9m、長さ3.0～10.0mのトレンチを2箇所設定し、基礎床面とされる深さ0.7mまで掘削し、調査を行った。調査の結果、山梨大学建設当時の客土がみられ、安定した地山等、武田城下町遺跡に伴う遺構などは検出されなかった。



立会調査 位置図

6-18 富士北麓総合学科建設事業に伴う 仮設校舎建設立会調査

所在地 富士吉田市新西原1丁目23-1
(北富士工業高等学校グラウンド)

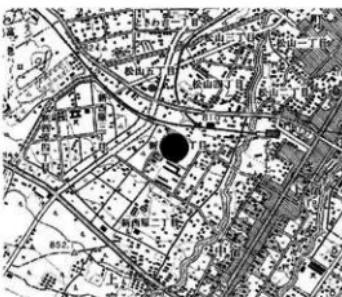
調査期間 2003年5月29日

調査面積 52.0m² (調査対象面積 1,300m²)

担当者 坂本美夫・高野玄明・正木季洋

事業予定地内に幅1.2m、長さ3.6mのトレンチを12本設定し、重機により仮設プレハブ基礎床面とされる深さ0.7m前後まで掘り下げを行った。

この結果、富士山噴火に伴うと思われる黒色火山灰が1.0m以上堆積している状況が窺えるなど、遺構・遺物の確認は出来なかった。



立会調査 位置図

6-19 県庁構内地下埋設工事に伴う立会調査（甲府城跡）

所在 地 甲府市丸の内1-6-1（県庁構内）

遺 跡 名 甲府城跡

調査期間 2003年8月21~22日、9月18日（夜間）

調査面積 20m²

担当 者 保坂 康夫

県庁西門の光ファイバー情報管理設工事に伴い、夜間立会調査を実施した。

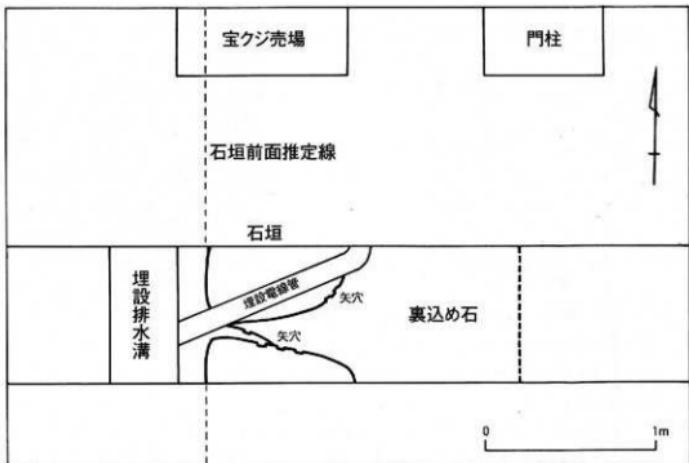
8月21・22日の作業は、幅1m、深さ1mの溝を長さ20mに渡って重機で掘削し情報管を埋設するもので、地表下30cmは舗装コンクリート、その下位は砂などの客土層であったが、中央部2mほどの範囲に径5cm程度の礫を含む褐色粘土層が舗装コンクリート直下にあり、搅乱を受けていない一次的な土層と思われる。

9月18日の作業は、平和通り側10mの工事深度を変更し地表下2mまでを掘削するもので、工事区域中央部で堀側の石垣を確認した。奥行き1mほどの検地石で、裏グリ層を伴っていた。礫の側面には矢穴が見られ、幅5~6cm、奥行き6cmほどの大きさである。間地石であることや、矢穴の大きさから、幕末頃の比較的新しい時期の改修石垣である可能性が考えられる。

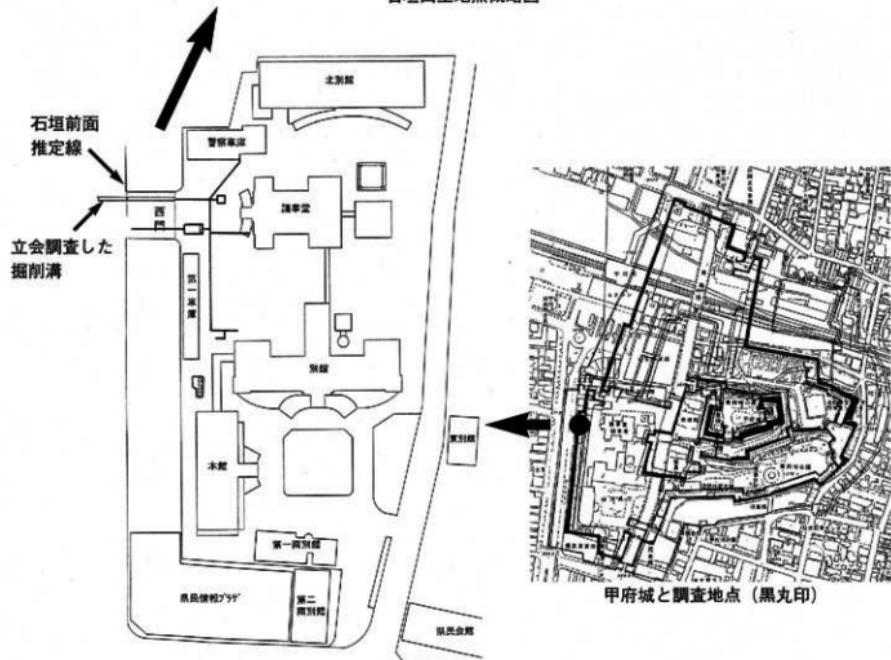
絵図等によると、今回調査部分は、楽屋曲輪西側の土壘と堀側を固める石垣に当たる。土壘の城内側裾部の溝を平成13・14年度に確認しており、土壘はほぼ裾部まで掘削されているものと思われる。石垣は本来、土壘の頂部まで構築されていたと思われるが、土壘除去時の掘削で、ほぼ土壘裾部のレベルまで除去されている。今回確認した石垣は除去された石垣の中腹部分と思われ、さらに堀の底部に向かって下半部分の石垣が埋め立てられて残存しているものと推定される。



立会調査 位置図



石垣出土地点概略図



県庁構内図と調査位置

6-20 大林寺川火山砂防事業に伴う立会調査

所在地 北巨摩郡明野村浅尾新田地内

調査期間 2003年9月18日

担当者 坂本美夫

砂防堰堤計画予定地はA地点・B地点の2カ所があり、A・B地点及び周辺地域について、掘削及び地表観察によって埋蔵文化財包蔵の有無の確認を行った。調査の結果、A地点においては、斜面から落下して堆積した黒褐色の表土の下30cmで茅ヶ岳火碎流堆積物が堆積する。周辺地では、整地された地表一面に赤褐色の茅ヶ岳火碎流堆積物が確認された。B地点周辺の切り通しの観察においても、表土下は茅ヶ岳火碎流堆積物が堆積している。遺構・遺物は確認されなかった。

6-21 北杜高校農場内建物解体工事に伴う立会調査（原町農業高校前遺跡）

所在地 北巨摩郡長坂町塚川地内 北杜高校農場内

調査期間 2003年9月18日

担当者 坂本美夫

解体建物の基礎に沿って12本のトレンチを設定し、重機で掘削後、人力による精査で埋蔵文化財の有無を確認した。調査区の西側は原町農業高校前遺跡の2001年度発掘調査区であり、縄文時代中期の集落跡が確認されている。調査の結果、表土下にローム層が堆積し、水道施設時の溝、攪乱による堀り込みが確認された以外、遺構・遺物は全く確認されなかった。

6-22 裁判所長宿舎基礎撤去工事に伴う立会調査（武田城下町遺跡）

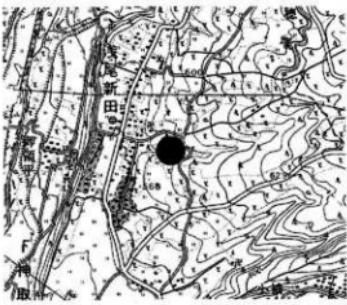
所在地 甲府市武田1丁目88-1

遺跡名 甲府城下町遺跡

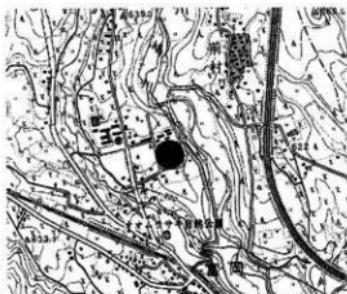
調査期間 2003年11月28日

担当者 綱倉邦生

裁判所長の宿舎の基礎撤去に伴う立会を行い、埋蔵文化財の有無について確認した。宿舎や宿舎前のコンクリート基礎は地表下10~20cmで撤去された。このため、掘削が遺物包含層に到達していないと判断し、立会を終了した。



立会調査 位置図



立会調査 位置図



立会調査 位置図

6-23 県営塩部第2団地改築事業に伴う立会調査

所在地 甲府市塩部4丁目11 県営塩部第2団地地内

調査期間 2003年12月17日、2004年1月6日～9日

担当者 坂本 美夫

建設予定地の掘削に沿って埋蔵文化財包蔵の有無を確認した。調査の結果、盛土の下からは泥炭層ないしシルトの互層が厚く堆積していた。地表部のごく浅い部分と、旧建物解体後の整地に伴う客土、埋土による擾乱部を除き、ほとんど水平堆積をみており、遺構などの埋り込まれた形跡はみられなかった。遺物についてもなんら確認することはできなかった。



立会調査 位置図

6-24 北杜高校農場内馬術練習場整備構列設置に伴う立会調査（原町農業高校前遺跡）

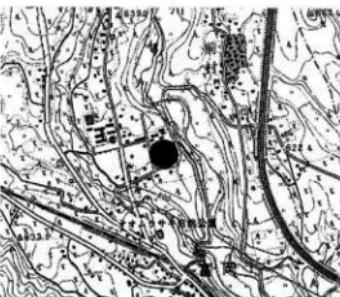
所在地 北巨摩郡長坂町塚川地内（北杜高校農場内）

遺跡名 原町農業高校前遺跡

調査期間 2004年2月6日

担当者 高野 玄明・正木 季洋

馬術場構列建設のため、直径20cmのオーガーによる掘削の立会調査を行った。その結果、掘削上面からローム層が見られるなど、立会調査を行った3箇所から、遺物などの出土は認められなかつた。



立会調査 位置図

6-25 六郷町落居地区地滑り対策事業に伴う試掘立会調査

所在地 西八代郡六郷町落居日蓮宗妙蓮寺墓地南端

作業期間 2004年2月24日

調査面積 36m²

担当者 八巻 輿志夫

対象地は、日蓮宗妙蓮寺墓地南端にあたる。工事は方6mの範囲に地下水を抜くための直径5mの井戸を掘削するものである。掘削される井戸の施工範囲及び立木の移植場所の2箇所について、掘削時に立ち会ったが、遺構・遺物は確認されなかった。



立会調査 位置図

第3章 県内の概況

1. 発掘調査

2003年度に実施された県内の発掘調査件数は、試掘調査を含めて173件となっている。その内訳は、県が13件・市町村が160件である。発掘調査の原因は、道路17件、河川2件、学校1件、集合住宅16件、個人住宅61件、店舗8件、個人住宅兼工場又は店舗3件、その他建物19件、宅地造成12件、土地区画整理1件、公園造成2件、観光開発1件、ガス・電気・電話・水道3件、農業関連13件、土砂採取1件、その他開発9件といった緊急調査と、3件の学術調査や1件の保存目的の範囲確認調査があった。

2. 県指定文化財

平成15年5月1日に新たに県指定文化財（有形文化財）の考古資料として八代町の「岡遺跡出土、容器形土偶2点」を指定した。容器形土偶については、嬰児や小児の埋葬用の容器との見方があげられており、県内では他に、垂崎市坂井遺跡からも1点出土した例などもあるが、一対での発見は今のところ例を見ないものである。この容器形土偶は、その豊かな表情に土偶に託した当時の人々の精神的な面が垣間見られ、本県における绳文時代末から弥生時代にかけての変動の時期の墓制の在り方を知る上で重要な資料である。

この他、絵画として都留市長生寺の「紙本金地著色龍虎梅竹図六曲屏風、絹本着色艶三尊十六善神像、絹本着色小山田出羽守信有（契山存心）像」、石和町大藏経寺の「絹本着色兩頭愛染明王像、絹本着色不動明王二童子像（座像系）、絹本着色不動明王二童子像（立像系）、絹本着色騎獅不動明王八人童子像」を県指定した。

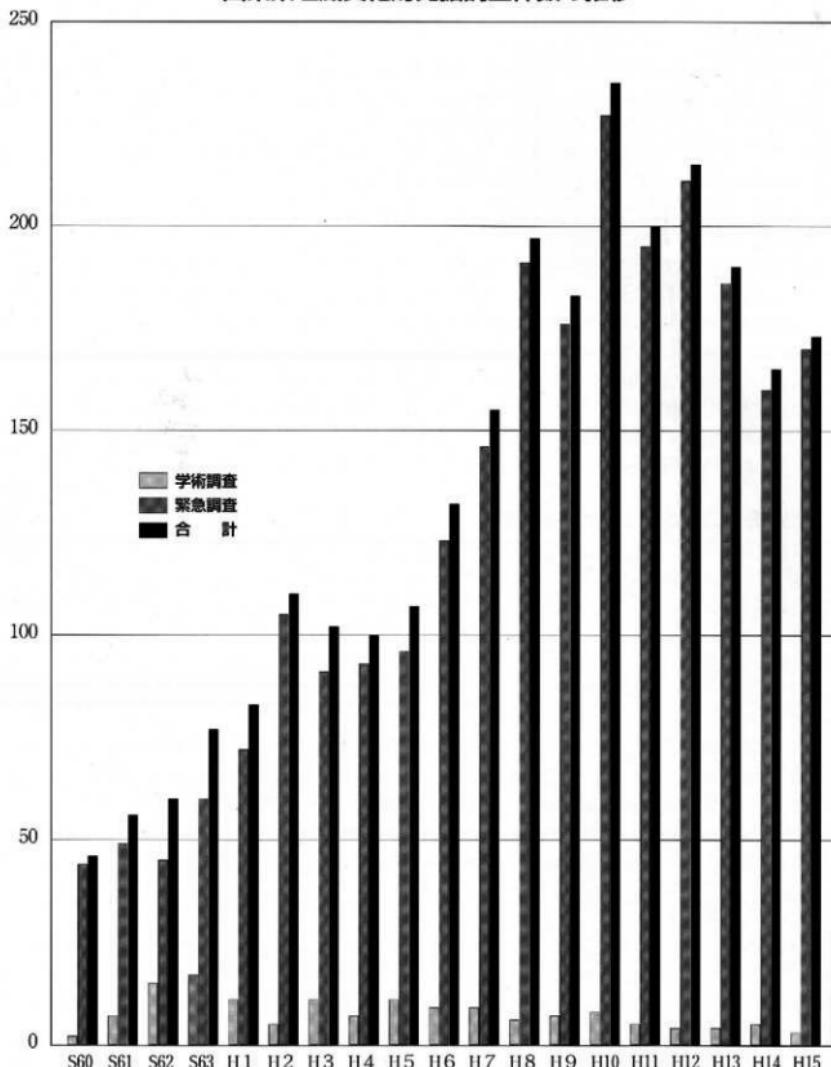
3. 発掘調査の成果と保存整備事業

绳文時代では、明野村における諏訪原遺跡の土偶装飾付土器や梅之木遺跡の中後期後半の環状集落など相次ぐ発見により、茅ヶ岳西麓に展開する绳文遺跡群の在り方が注目を集めている。また、境川村京原遺跡からは、前期内の住居跡から国内でも最古級の編み物の压痕が発見され、年代が明かなものとして極めて貴重な資料となっている。古墳時代では、南アルプス市中畠遺跡の直径約24mの円形の周溝をもつ低墳丘系墳墓の発見や八代町竪塚古墳が調査により一辺56m規模の大型方墳であることが明らかとなり、甲府盆地における古墳時代中期の古長脛の変遷を解明する重要な資料が得られた。平安時代では、明野村での永井原V遺跡の区画溝や梅之木遺跡の馬の骨や焼きごてなど「小笠原牧」との関わりを示唆する資料の発見により、具体的な牧の姿が明らかになりつつある。玉穂町上鶴遺跡では、平安時代末の水田面から地震痕跡（噴砂）や室町時代の溝跡から漆椀、曲物、箸等の木製品が良好な状態で発見されており、甲府盆地南部の低湿地の遺跡様相を探る貴重な資料となっている。中・近世では、保存整備に伴って大泉村の谷戸城や垂崎市の新府城等で発掘調査が行われ、新府城の掘手周辺の調査により空堀に架けられた橋を支える橋台跡が発見され、新たに武田氏の造成技術を解明する手がかりが得られた。県指定史跡甲府城では、整備事業が最終年度を迎えて、稻荷櫓の復元に向けての事業が進められた。

4. 調査体制

埋蔵文化財専門職員（埋蔵文化財担当及び担当可能職員）について、県では学術文化財課5名（うち博物館建設室1名）、埋蔵文化財センター26名（うち非常勤嘱託5名）、考古博物館2名（外に非常勤嘱託1名）、市町村では、甲府市6名（外に非常勤嘱託1名）、富士吉田市2名、大月市2名、垂崎市2名、南アルプス市3名、一宮町2名、八代町2名、大泉村2名、都留市、塩山市、山梨市、春日居町、牧丘町、勝沼町、石和町（外に臨時1名）、御坂町、境川村、中道町、荒富村、増穂町、竜王町、敷島町（外に非常勤嘱託1名）、正徳町（昭和町と田富町を兼務）、双葉町、明野村（外に文化財調査員1名）、須主町（外に非常勤嘱託1名）、高根町、長坂町（外に臨時1名）、小淵沢町、白州町、武川村（外に臨時1名）、上野原町に各1名となっており、56市町村のうち34市町村に埋蔵文化財担当者が配置されている。

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移



2003年度 県内発掘調査一覧表

No.	遺 墓 名	所 在 地	面積(m ²)	調査の種類	調 査 の 時 代	調査日	調査主体	調査実績
1	高八幡山古墳群(313-1)	中野市上山口-1-13	60.00	発掘調査	不明 文化・古墳・奈良・平安	H15.3.19	人代町防災委員会	H15.3.19
2	五反田古墳	中野市上山口-1-13(62-1-3)	50.00	発掘調査	明文	H15.3.25	人代町防災委員会	H15.3.25
3	上山田古墳	中野市上山口-1-13(62-1-4)	8.00	発掘調査	明人住宅	H15.3.18	人代町防災委員会	H15.3.18
4	大木原古墳	高柳町高柳字大木原275-1	250.00	発掘調査	土器遺跡	H15.3.19	高柳町防災委員会	H15.3.19
5	上山田古墳	高柳町高柳字大木原275-1	150.00	発掘調査	高柳町防災委員会	H15.4.1	高柳町防災委員会	H15.4.1
6	高柳町下河原	中野市高柳字下河原257-3	80.91	下河原	明文・奈良・平安中期	H15.4.1	中野市防災委員会	H15.4.1
7	高柳町下河原	中野市高柳字下河原257-3	151.68	下河原	明人住宅	H15.4.7	中野市防災委員会	H15.4.7
8	上山田古墳	高柳町高柳字上山田256-1	100.00	発掘調査	高柳町防災委員会	H15.4.11	高柳町防災委員会	H15.4.11
9	大木原古墳	高柳町高柳字大木原256-1	100.00	発掘調査	高柳町防災委員会	H15.4.11	高柳町防災委員会	H15.4.11
10	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原256-2	100.00	発掘調査	高柳町防災委員会	H15.4.11	高柳町防災委員会	H15.4.11
11	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原256-3	50.00	発掘調査	高柳町防災委員会	H15.4.11	高柳町防災委員会	H15.4.11
12	大木原古墳	高柳町高柳字大木原256-3	50.00	発掘調査	高柳町防災委員会	H15.4.11	高柳町防災委員会	H15.4.11
13	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原256-3	4.00	2つの墓(重複・危険地)	古墳・古墳・奈良・平安	H15.4.11	高柳町防災委員会	H15.4.11
14	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原257-1	60.00	発掘調査	古墳・古墳・奈良・平安	H15.4.11	中野市防災委員会	H15.4.11
15	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原257-1	120.00	発掘調査	古墳	H15.4.11	中野市防災委員会	H15.4.11
16	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原257-1	280.00	発掘調査	古墳・平安中期	H15.4.11	中野市防災委員会	H15.4.11
17	大木原古墳	中野市高柳字大木原256-2	120.00	発掘調査	古墳・平安中期	H15.4.11	中野市防災委員会	H15.4.11
18	高柳町下河原	中野市高柳字下河原257-1	63.00	下河原	明文・奈良・平安	H15.4.11	高柳町防災委員会	H15.4.11
19	高柳町下河原	中野市高柳字下河原257-1	40.00	下河原	明文・奈良・平安	H15.4.11	高柳町防災委員会	H15.4.11
20	高柳町下河原	中野市高柳字下河原257-1	261.12	発掘調査	古墳・古墳・奈良・平安中期	H15.4.11	高柳町防災委員会	H15.4.11
21	中野市下河原古墳	大木原町西原277-1	70.23	発掘調査	明文・奈良・平安	H15.4.11	中野市防災委員会	H15.4.11
22	高柳町下河原	大木原町西原277-1	63.00	発掘調査	明文・奈良・平安	H15.4.11	中野市防災委員会	H15.4.11
23	高柳町下河原	大木原町西原277-1	132.75	発掘調査	明文・奈良・平安	H15.4.11	中野市防災委員会	H15.4.11
24	上山田古墳	高柳町高柳字上山田106-1	20.00	発掘調査	古墳	H15.4.12	中野市防災委員会	H15.4.12
25	大木原古墳	高柳町高柳字大木原141-1	56.00	発掘調査	古墳	H15.4.12	中野市防災委員会	H15.4.12
26	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原141-1	56.00	発掘調査	古墳	H15.4.12	中野市防災委員会	H15.4.12
27	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原141-1	56.00	発掘調査	古墳	H15.4.12	中野市防災委員会	H15.4.12
28	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原141-1	214.47	発掘調査	古墳	H15.4.12	中野市防災委員会	H15.4.12
29	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原141-1	90.00	発掘調査	高柳町防災委員会	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
30	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原141-1	214.10	発掘調査	古墳・古墳・奈良・平安	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
31	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原141-1	35.75	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
32	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原141-1	41.43	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
33	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原141-1	86.35	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
34	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原141-1	109.21	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
35	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原141-1	280.00	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
36	上山田古墳	山崎町高柳字上山田276-12	37.48	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
37	上山田古墳	山崎町高柳字上山田276-1	45.37	発掘調査	高柳町防災委員会	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
38	上山田古墳	山崎町高柳字上山田276-1	220.00	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
39	上山田古墳	山崎町高柳字上山田276-1	251.15	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
40	上山田古墳	山崎町高柳字上山田276-1	271.37	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
41	上山田古墳	山崎町高柳字上山田276-1	2.30	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
42	上山田古墳	山崎町高柳字上山田276-1	20.58	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
43	上山田古墳	山崎町高柳字上山田276-1	350.14	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
44	大木原古墳	高柳町高柳字大木原3-3	155.00	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
45	大木原古墳	高柳町高柳字大木原3-3	454.41	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
46	大木原古墳	高柳町高柳字大木原3-3	175.30	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
47	大木原古墳	高柳町高柳字大木原3-3	560.00	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
48	大木原古墳	高柳町高柳字大木原3-3	300.00	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
49	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原276-1	271.37	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
50	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原276-1	120.20	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
51	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原276-1	365.49	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
52	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原276-1	161.99	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
53	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原276-1	34.00	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
54	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原276-1	161.99	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12
55	高柳町下河原	高柳町高柳字下河原276-1	70.00	発掘調査	古墳	H15.4.12	高柳町防災委員会	H15.4.12



年報 20

印刷日 平成 16 年 8 月 23 日

発行日 平成 16 年 8 月 31 日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曾根923
TEL 055-266-3881・055-266-3016
FAX 055-266-3882
E-mail : maizou-bn@pref.yamanashi.lg.jp

印刷所 株式会社 アド井上
山梨県中巨摩郡田富町流通団地 3-4-5
TEL 055-273-6141

